

改正教授術續編

若林虎三郎  
白井教

全

T1A

1

W 17

改正教授術統編

目次

卷之一

歷史課

理學課

化學課

生理課

幾何課

經濟課

唱歌課

体操課

卷之二

試業法

改正教壇術法編刊行叙

能ヲ得テ留ヲ望ムル人ノ當情ニテ國家ノ兩施  
ヲ致シ人文ノ甲的進歩此ニ由ラズバアラズ我邦時  
テ普通キ教壇術法ノ没アル今ヲ距ル十有餘年矣未  
ク改則及更ラテ改メ教壇術法ヲ以テ變スル一ニシラズ能  
レドモ其ノ主義タル毎ニ其ノ事一ノ向ヲ違ハスルニ在  
テ而シテ心性ノ昇降及ラズ便ナラシムルニ在ラズ弊令等  
テ其の科書ヲ刊行スルノ業ヲ以テ身ヲ任ジ因テ此ノ  
新ノ主義的教壇術法ヲシテ其ノ普及セシメント  
爲スルコト久シク是ヲ以テカガキ著者等其の并而致ノ

改正教授術ヲ編纂スル旨ヲ以テ上梓ス母ニ由  
十二年六月也則テ素ノ旨ヲ更ハシ編纂ニ  
書佐タル任ニ妙スル所ニ而シテ要願如ク増シ  
リ日ニ急ヤ志ル可シ新主義的教授法ノ位ヲ  
典論中心ニトシテ下ヲ以テ其ノ内ニ以テ  
セザルベキカ能ハシ正編ハ其ノ教授法ノ例ヲ示ス僅セハ  
多科ニ属ギズ由ノ故ナリ其ノ大ニ遺憾ヲ  
ルニナラズ改テ其ノ案ニ兼テハ又余等ノ志ニ  
兩也ニ付シ其ノ編ニ漏レル諸学科ハ其ノ  
一例ヲ編纂ニシテ以テ割割ニ付ス亦唯者者  
トス

障靴控痒ノ憾ナカラシメントスルノ微衷ノミ且  
審テ此ノ案ニ長事スルニ信任ヲ被ル頗厚  
ク而シテ其ノ一画ノ識ナク未ダ氏姓ヲお通  
ズ子ナリ打書ヲ寄セテ以テ其ノ校ニ入  
ノ規則ヲ示シ向セラルルニ至ル抑又其ノ位  
甚ダ粗ナラサルニ由ルカ故ニ此ノ編附録  
家学校ニ東京女子学校入子通則  
及中學校新学科ニ于テ其ノ範  
科カ列スルヲ以テシ又以テ江湖  
トス亦是レ其ノ書佐タルノ案ニ  
トス

明治十七年三月

普及舎主謹後

改正教授術續編卷之一

若狹虎三郎

白井 教

編纂

歴史課

第一 緒論

歴史ハ其抱括スル事實ノ浩瀚ナルト此等ノ事實ヲ分類  
シテ一般ノ主義或ハ法則ヲ撰出スルノ容易ナラザルト  
、故ヲ以テ之カ教授ニ従事スルハ小學請學科中最モ困  
難ニシテ教育者ノ殊ニ注意研究マカルベカラザルモノ  
トス

從來我國ノ小學歴史ハ歷代ノ皇統即位及崩御ノ年月  
執政者或ハ勇將ノ代姓戦争ノ地及勝敗等總テ歷史上最モ  
單一ナル事實ヲ擧ガルニ過ギズシテ恰モ一ノ省畧ナル

年代記ノ如ク解難ノ文字ヲ用テ此ノ省畧セル文章ヲ  
記述セルヲ以テ該課ノ教授ハ殆ド読書課ニ類似シ生徒  
ハ唯其字義ヲ解釈スルニ汲々トシテ決シテ歴史の智識  
ヲ得ル能ハズ是レ大ニ該課教授ノ本旨ニ違フモノト謂  
フベシ

然ラハ則其省畧セル畧史ニ就キ一其ノ意ヲ敷衍シ以  
テ真正ノ智識ヲ興フベキモノトマンカ數十年間地球上  
ニ起リタル十種萬美ノ事實豈能シ小学ノ科程中ニ尽ス  
ルベキ所ナラシテ皆ニ尽ス能ハザルノミナラズ恐ラハ  
高尚ナル心カラ要スルノ事實夥多ニシテ決シテ幼稚未  
熟ナル脳髓ノ能ク感受印識スベキニ非ルベシ  
政家諸教育家ノ此ノ課ニ就テ説ヲ作ス亦各其ノ思想ヲ  
異ニシテ未嘗テ一定不拔ノ公論ヲ有ス希渺ルカ如シ

ト雖之ヲ要スルニ真正ノ歴史學ハ小学ノ区域内ニ非ラ  
ズシテ小学ニ在テハ唯歴史ノ豫科トナルベキ事實而高  
畧ニシテ児童ノ觀ヲ惹クニ足ルベキ歷史上ノ談話若ク  
ハ列傳俗ノ畧記等ヲ教フルヲ以テ是レリトスルノ説ニ  
至テハ最良ノ他教ヲ右ハ蓋シ妥當ノ意見ト謂フベシ  
小學校教則綱領ニ此ノ課ヲ置ク單ニ本邦歴史ヲ授クル  
ニ止マリ外國歴史ニ至テハ全ク之ヲ小学科程外ニ措ケルモ  
蓋亦此ノ意ニ出ヅルモノノ如ク小學校ニ此ノ課アルハ  
固ヨリ完全ナル歴史學ヲ教フルニ非ズ唯本邦即生徒ニ最近最近感ノ  
關係ヲ有シ其ノ事實モ多ク尙知スル所ノモノ臣民タルモノノ最近知ラザルベ  
カラサハノ事實ヲ授クルノ謂ナリ  
以上ノ見解ニ據テ此ノ課ヲ教授セシニハ先本邦歴史中  
其最幼稚ナル脳裡ニ感度印識シ易クシラ且尤ニ往々尊

王愛國ノ志景ヲ養成スルニ足ルバキ事實及最良ノ生徒  
ノ修身處事上ニ補益ス可キ事實ヲ撰取シ之ヲ談話体或  
ハ列傳体ニ編成シテ詳密ニ教授シ以テ各事實ニ就テ可  
成的精確ナル觀念ヲ得セシムルヲ以テ最有益ナリトス  
今其撰取スベキ事實ヲ擧ゲテ茲ニ臚列スルハ固ヨリ望  
マサル所ニ非ズト是斯ノ如クスル所ハ為メ、數多ノ紙  
數ヲ要シ且却テ在編ノ主意ニ非ザルヲ以テ之ヲ畧ス他  
日別ニ詳論セント欲スルハナリ

第二 教師ノ注意

(一) 此ノ課ハ尊王愛國ノ志氣ヲ興起スルヲ以テ一大主眼  
トナスガ故ニ教授ノ際 天皇及皇族ノ御講及言行ニ  
関スルモノハ殊ニ尊敬ヲ加ヘ且仁君英主ノ民ヲ愛シ  
國ヲ重ンズルノ事項ニ至テハ特ニ其意ヲ致シ生徒ヲ

シテ自ラ忠誠ヲ竭ガル可カラガレノ念ヲ起サシムル  
ヲ要ス

- (二) 地図ハ此ノ課ヲ教授スルニ於テ最大ノ補益ヲナスモ  
ノ下レバ最モ精確ナルモノヲ用ケルマシ且緊要ノ部  
分ノ如キハ時々之ヲ塗板ニ大書シ又符号ヲ用テ其  
ノ事實ノ起リタル位置ヲ精密ニ標示スルヲ要ス
- (三) 歴史上確實ナル図画ハ極メテ概要ニシテ既ニ其ノ一  
ヲ得ル所ハ總テ当代開明進歩ノ度ヲ推測スルハ根據  
ヲ與フルモノナレバ幾多尋常ノ叙事ヲ讀マシヨリハ  
却テ有益ナルモノトス故ニ教師ハ常ニ之ヲ蒐集スル  
ニ注意ス可シ

(四) 若シ撰取スル事實中甚高尙ニシテ生徒ノ理解ニ難キ  
部分アレハ則チ之ヲ省畧シ之ヲ他ノ部分ヲ授クル

ヲ善シトス

(五) 此ノ課モ亦修身科ノ如ク殊ニ教師言語ヲ用ルノ巧  
拙ニ因テ結果トシ大差異ヲ生ズルモノナレバ特ニ此  
ニ注意シ言語簡明繁雜ニ涉レハ語法巧ミナリト屋天  
リアニシテ能ク當時ノ情况ヲ想像セシムルニ足ルヲ  
要ス可シ

(六) 談話スル事項ノ要者ヲ摘書シ生徒ヲシテ之ヲ書キ取  
ラシム可シト雖次ニテ之ヲ以テ教科書ニ代フベキノ  
意ニ非ズ但シ教科書ハ可成的読ミ易キモノヲ与ヘ生  
徒ノ参考ニ供ス可シ教師ノ事更ニ撰取スルニ因ヨリ  
其ノ書ヨリ採萃スルヲ要ス

教授術一例 尤ニ攝ル所ハ其法尙單ナルヲ以テ姑ラ  
之ヲ取レリ尙且善長ナルノ例ナキニ非レ  
ドモ其繁長ニ失セシコトヲ恐レテ之ヲ省キ  
タリ諸君之ヲ諒セヨ

教 余ハ歴史中ノ一課ヲ授ケントス能ク注意肅聴シテ

余ガ問テ答ヘ且明カニ之ヲ及處スベシ

教 却説神武天皇ヨリ十二代ノ天皇ヲ景行天皇ト申シ

此ノ天皇ノ御子ニ極メテ名高キ御方アリ汝等之ヲ

知ルヤ

生 三四名奉侍 日本武尊ナリ 胡次 教可  
書取 各唱

教 然リ余ハ今此尊ノ御事業ニ就キ汝等ニ告ガシ

アラントス(日本武尊ノ御影ヲ寫シタル圖)可成十的

用サレラヌヲ要ス黒板ニ掲ゲ此ハ即此ノ尊ノ御影ナリ

教 此ノ尊ノ御衣ニ就キ長ル所語シ

(注意) 圖画ニ示セル所ヲ精密ニ語ラシム可シ

教 現時着用スル衣服ト如何ナル差異アルヤ 種々ノ答  
ヲ要ス

教 冠履武器ハ如何



(注意)亦御衣ニ就テ詰ラシメタルト同ク其ノ図画ニ  
示セハ所ヲ精密ニ詰ラシメ且ツ其用井タル図画ノ  
模倣ニ從テ種々ノ向答ヲナス可シ

教 現時用井ルモノト之ヲ比較ス可シ 種々ノ答ヲ要ス

教 此ノ尊ハ御幼各ヲ小確ト呼ハセタマヒ幼ク在セシ

時ヨリ非常ニ賢キ御方ナリシ

成長セサセ給フニ隨テ其ノ御容貌武ク勇マシク御

身ノ長ハ約一丈ニモナラセラレタリ

教 現時ノ人ハ通常何程ノ身長ナリヤ

生 現時ノ人ハ通常五尺ヨリ六尺許ナリ 級決 教可

教 然リ此ノ尊ノ御身長ハ現時ノ人ニ較ブレハ四尺或

ハ五尺許リモ高カリシ

教 試ニ今學ビタル丁ヲ又覆ヌ可シ今日ハ如何ナル丁

ヲ話スト言ヒンヤ

生 日本武尊ノ御事業ニ就テ話スト云ハレタリ 級決 教可

教 尊ノ御父ハ何方ナリシヤ

生 景行天皇ナリ 級決 教可

教 尊ノ幼ク在セシ時ニ就テ話ルハシ

生 尊ノ御幼各ハ小確ト呼ハセタマヒ非常ニ賢キ御方

ナリシ 級決 教可

教 尊ノ御容貌ハ如何

生 健ク勇マシクアリシ 級決 教可

教 御身長ハ如何

生 御身ノ長ハ約一丈程ナリ 級決 教可

注意右了リテ黒板上ニ抄記スル所ヲ尋ゲテ急ク各  
唱齊唱セシム

教 却説此ノ傳御年十二ニ成ラセラルタル時熊襲ト稱  
スル賦アリ天皇ノ御年ニ教キ近傍ノ人民ヲ苦シメ  
タリ

教 此ノ熊襲ハ何處ニ教キシヤ往古ノコトニテ今之ヲ確  
ト定ムルコトヲ得ザレドモ大抵田向地方ナルベシト  
思考スル存全図ヲ掲ゲ今此ノ地圖ニ就テ其地方ヲ  
指示セヨ

生 之ヲ指ス 級次 教可

教 誰カ熊襲ト書シ得ルモノアリヤ

生 知ラズ 教可 書教 各唱

教 熊襲ノ譯教ニタルコト頻リニ都ノ南ヘケレバ天皇  
ハ此ノ傳ニ勅セラルテ之ヲ討タシメタマフ尊ハ勅  
ヲ兼リ速ニ御立ノ準備ヲ為サセタマヒタリ

教 當時ノ都ハ纏向ト云フ所ニシテ即チ大和ノ北部  
在リ地圖ニテ之ヲ示ス

生 之ヲ指ス 級次 教可

教 此ノ都ヨリ田向地方マデ約百里アリト思フヤ

生 二百里余ナルベシ 級次 教可

教 此ニ百里余ノ里程ハ現時ニテモ全シクニ百里余ナ  
レ氏當時之ヲ旅行スルト現時之ヲ旅行スルト其ノ

難易ハ如何ナリト思フヤ

生 現時ハ馬車人車或ハ遠船便アリ氏當時ハ之ナシ  
觀テニ極メテ困難ナリシナルベシ 級次 教可

教 誠ニ然リ今誠ニ當時ノ景況ヲ想像スルニ車馬遠船  
ノ便勿論蓋路モ殆ド一定ノモノナリ亦恐ラクハ橋

梁モ少ナカリシナラン又篇油モ極メテ不自由ナリ

二十ラニ舟舩ノ便ヲカテガリンナルベシ且蒞棘  
 ハ道ヲ塞ギ猛獸警鳥毒蝎ノ類所々ニ出段ニ又時ア  
 リテ盜賊ノ旅人ヲ害スルモノ亦ナカラガリシ十  
 ルバシ當時旅行ノ困難ナル實ニ推測スルニ余アリ  
 此ノ尊ハ御年僅カニ十二ニシテ道路ノ然ク困難ナ  
 ルヲ又意ト爲サセタマハズ強猛敵地不剛ノニ向テ  
 御出軍爲サセ玉シト人何ニ依リヤ  
 此ノ尊ハ非常ニ強勇ノ御方ナルヲ以テナリ  
 然リ此ノ尊ノ勇武人ニ起ヘタマヘル固ヨリ明十  
 レ氏然レ氏此ノ尊ノ公ニシテ忠ヲ天皇ニ竭シ私ニ  
 シテハ孝ヲ親ニ致シ下ニシテハ九州地方ノ人民ガ  
 強敵ノ爲メニ根柢ヲ敷ルヲアハレミタモフノ御志  
 在リシニアラガレハ決シテ斯ノ如キ丁能ハザル

教 日本武尊ハ教ヌノ兵キヲ率ク其ノ年十月ニ彌御出  
 軍爲サセ玉シ辰ヌノ浪津ヲ経テ同年十一月熊襲ノ  
 任所ニ近グキタマヘリ  
 教 却説テ字ビタルヲ及霞ス可シ余ハ今何事ニ就キ  
 テ語リシヤ  
 生 日在御尊ノ熊襲ト曰フ賊ヲ討タタマヒシコトヲ傳  
 ンリ  
 教 尊ノ熊襲ヲ討タタマヒシコトキノ御年餘ハ云フあり  
 シヤ  
 生 御年十六ナリ  
 教 熊襲ノ住處ハ何所ナリヤ  
 生 大抵山内地方ナリ

細文 教可  
 細文 教可  
 細文 教可

教 大和、國ヨリ約取里距タルヤ

生、二百里ナリ

級次 教可 書板

教、当時道中ノ摸擬ハ如何ニ想像スルヤ

生、道路橋梁甚ガ不充全ナリニナルベシ

教、其ノ他ハ如何

生、密狀舟舳ニ亦少ナカリニナルベシ

教、尚ホ其他ハ如何

生、猛獸毒蛇アリ又時アリテ盜賊ノ害モアリニナルベシ

教、然リ尊ハ何故ニ速カニ御出軍為サマ玉トコヤ

生、此ノ尊ハ忠孝ヲ重シ人民ヲアハシミタマハルニ依リ

教、尊ハ何時都ヲ御出軍為サマタマヒ何時無憂ノ住地

生、十月御出軍為サマタマヒ十一月ニ至リ御到着為サ

マタマヒタリ 級次 教可 書板

ニ御到着為サマタマヒコヤ

注意、右了リテ黒板上ニ抄記スル所ヲ擧ゲ各唱齊唱

マコトムルコト前ノ如クス可シ

教、余ハ再心前ニ説テ誡諭ス可シ日在武尊ノ彼ノ地ニ

御到着為サセタマヒ後賊ノ状況ヲ探ラシカク

賊巢ヲ伺ヒタマハルニ賊ノ頭領ニ川上射師ト云フ

モノアリ

教、川上射師ト書シ得ルモノアリヤ

生、一生擧キ之ヲ書ス 級次 教可 各唱

教、此ノ川上射師ハ其時命親戚及部下ノ輩ヲ聚メテ

大ニ酒宴ヲ開キ婦女ニ杯酌ノ役ヲ執ラシメ居リ

教

斯ノ如キ状況ヲ見ハ汝等ハ如何セント欲スルヤ

種々ノ向答ヲ要ス

教

尊ハ之ヲ見タマヒテ心ニ一計ヲ算出シ而テ結ビ

ル髪ヲ解キテ婦女ノ体ヲ為シ亦衣服ヲ更ヘテ若キ

女ノ姿トナリ劍ヲ衣服ノ中ニ置シ潛ニ賊巢ニ至リ

婦女ノ中ニ交ハリテ周旋シタマヘリ

川上兼師ハ熟之ヲ見テ其容貌ノ衆ニ勝レルヲ愛

シ延テ席ヲ同クセリ

既ニシテ酒酣ニ衣丈ニ更テテ部下ノ輩皆去リ兼師

モ大ニ醉ヒタリ

尊ハ此ノ振ヲ見テ匿マシ劍ヲ拔キ兼師ヲ刺シタマ

フ

兼師大ニ驚キ頭ヲ叩キテ曰ク汝ハ是レ誰シナリヤ

尊曰ク昔ハ天皇ノ子ナリ

兼師曰ク昔ガ武カハ因中第一ニシテ能ク敵スルモ

ノ無ク未皇子ノ如ク勇猛ナルモノヲ見ズ願ハクハ

善キ谷ヲ奉リテ日今日平武ノ尊ト曰ハント尊ハ之ヲ聞

キ終リテ益々ニ兼師ヲ殺シ入リ此ノ尊ヲ用ハ武

ノ尊ト称スルハ此ノ事アリシニ因テナリ

却説兼師既ニ誅セラシ其美ハ日ナラズニテ討テ

七ホサレ遂ニ全ク平ケリ

其明年二月尊ハ都ヘ凱戦為サマタマヒシヲ以テ天

皇大ニ其ノ功ヲ賞シ以テ倍ニテ御覽愛在セリ

是ヨリ及履ス可シ尊ハ熊襲ノ地住ヘ御到着ノ後如

教

何為サセタマヒシヤ

賊ノ状況ヲ伺ヒタマヒタリ

生

級決 教可 書板

教、賊ノ頭領ヲ何ト曰ヘリヤ

生、川上景師ト曰ヘリ 級次 教可 書級

教、川上景師ハ最初如何為シ居リシヤ

生、親戚及部下ノ輩ヲ聚メテ酒宴ヲ開キ婦女ニ杯酌ノ

役ヲ執ラシメ居レリ

教、其ノ時尊ハ如何為サセタマヒシヤ

生、髪ヲ解キ衣服ヲ更メ女ノ姿トナリタマヘリ 級次 教可 書級

教、其後ハ如何

生、劔ヲ衣服ノ中ニ匿シ賊巢ニ入りタマヘリ 級次 教可 書級

教、川上景師ハ之ヲ見テ如何ヤシヤ

生、尊ノ容貌ヲ窺ヒ延テ席ヲ全タマリ

教、其ノ後ノ状況ハ如何

生、夜大ニ更ケテ部下ノ輩ニ合リ景師モ亦大ニ酔ク

タリ

教、其時尊ハ如何為サセタマヒシヤ

生、劔ヲ抜テ景師ヲ刺シタマヘリ 級次 教可 書級

教、景師ハ其時如何マシヤ

生、景師大ニ驚キ頭ヲ叩キテ君ハ誰ト問ヘリ

教、尊ハ如何答ヘタマヒシヤ

生、吾ハ天皇ノ子ナリト答ヘタマヘリ 級次 教可 書級

教、景師ハ如何マシヤ

生、吾武カハ國中勇一ニシテ鉄ク敵スルモノナク赤皇

子ノ如キモノラ良ズ願フハ善キ名ヲ奉リテ今ヨリ

日本武ノ皇子ト呼ビ奉ラント云ヘリ 級次 教可 書級

教、之ヲ聞キ終リテ尊ハ如何為サセタマハルヤ

生、尊ハ景師ヲ殺シタマヘリ

教、何故ニ日本武尊ト稱スルヤ

生、景師ノ言ニ因テ斯ノ如ク稱シ奉ツルナリ 教可

教、景師ノ殺サレシ後ハ如何ナリシヤ

生、同類悉ク亡ビタリ

教、何時都ヘ凱戦シタマヒシヤ且天皇ハ如何為サマタ

マヒシヤ

生、明年二月凱陣シタマヒ天皇ハ其功ヲ賞シテ一偏等

ヲ御電褒為サセタマヒタリ 級決 教可 書取

右ノ法方ニ據リ黒板上ニ抄記ス可キ文字ハ概尤ノ如ク

ナリヲ要ス

日、日本武尊ノ御事業

(一) 尊ノ御父 第十二代景行天皇

(二) 尊ノ幼時 御幼名ハ小碓性臣ト號シ

(三) 尊ノ容貌 雄偉ニメ身ノ長一丈

(四) 熊襲征討 勅ヲ兼ル、時年十六

イ熊襲住所 日向地方

口熊襲距離 大和ヨリ約二百里附當時旅行ノ状況

ハ尊出征志望 忠孝愛民

ニ出軍及到着 出軍十月

ノ月 到着十一月

(五) 討賊順序 イ動靜伺察

口賊巢ノ状況

ハ女装衣中ニ劔ヲ匿ス

ニ川上景師ノ奉勅

大列殺

(六) 景師ノ向答 イ景師ノ向答

口尊、答

ハ嘉号、由来

(七) 凱陣ノ月 卯年二月

右ヲ二三回講読セシ後生徒ニ書キ取ラシム可シ

### 理化學課

#### 第一 緒言

物理學化學ハ俱ニ物体ノ变化ヲ論ズル學ニシテ各実學ノ一科ナリ蓋シ物体ノ变化ニ状態变化物質变化ノ二種アリ而シテ物理学ハ專ラ状態ノ变化ニ就テ論シ化學ハ物質ノ变化ニ就テ論ズ例ヲ以テ二種变化ノ異ナル所ヲ説カンニ彼ノ鉄塊ノ灼爛スルヤ初メ其色ヲ赤變ニテ微光ヲ放テ次ニ白色トナリ熾光ヲ發シ遂ニ熔解ス是一種ノ变化ナリ又鉄塊ヲ久シク氣中ニ曝露スルヤ漸々褐色、粉塊トナル之ヲ鏽ト云フ是レ亦一種ノ变化ナリ蓋シ此兩变化ノ間大ニ異ナル所アリ甲ハ唯<sup>數分</sup>状態ヲ變マシノミニシテ物質ノ如キハ毫モ變ズルコトナキモ乙ハ則チ然ラズ其状態ハ勿論其物質ノ如キモ亦全ク变化シテ



前ニ鉄タリシモノ其ノ変化以後ハ既ニ鉄ニ非ルナリ物理學ハ物理學ハ彼ノ鉄塊ヲ火燒スルトキノ如キ状態ノ变化ヲ論ジ化学ハ鉄ノ鏽ニ變ズルガ如キ物質ノ变化ヲ論ズ而シテ状態ノ变化ハ分子ニ起リ物質ノ变化ハ原子ニ起ルガ故ニ物理學ハ分子以上ノ变化ニ就テ論ズルモノニシテ化学ハ原子ノ变化ニ就テ論ズルモノタルヲ知ル可シ

物理化學ノ事タル前陳ノ如クナルヲ以テ之ヲ學修セシム欲セハ省察力殊ニ原因結果ヲ考究スルノ心カラ要ス故ニ原因ヲ推シテ結果ヲ知シ結果ヲ推シテ原因ヲ究得スルノ能カラ發育練磨マンニハ物理化學ヲ以テ最適当ノ業トナス是レ此ニ學科ヲ教育ニ応用スル所以ノ本源トス且ツ其レ物理化學ノ智識アル所ハ普遍ノ人民タル

ルニ於テ其効用ノ大ナルコト實ニ名状ス可カラス然カレドモ此ノニ學ヲ實地ニ応用スルガゴトキハ固ヨリ普通小學校ノ目的ニアラザルニミテラズ亦決シテ爲シ得可キノ業ニアラザルナリ抑理化ノ學タル頗ル高尚ノ科業ナレハ之ガ教師タルモノハ必先教養ノ方法ヲ熟考マザル可カラズ而シテ其教授上最モ緊要ナルモノヲ試驗及開發ノ途ナリトス故ニ此ニ著ノ文要ヲ尤ニ記ス理化學教授萬分ノ一ヲ裨補スルヲ得ハ幸甚

### 第二試驗者注意

理化學ノ試驗ヲ行フモノハ先清潔精密注意ニ徳ヲ備フルヲ以テ最大要務トナス故ニ茲ニ掲ガル所ノ注意途ノ如キモノ亦唯此ノ三者ノ趣意ヲ實地ニ布達シタルニ過ギズ

一 理化學ヲ教授スル者ハ其ノ教授ノ前必先其ノ試験ヲ行フノ準備ヲ為サハルベカラズ若シ此ノ準備ヲ怠ラズニ試験ヲ行フトキハ或ハ器械ノ破損ニ失薬品ノ缺乏等アリテ試験ヲ完ラスルヲ得ザルノ恐ナキヲ保セズ縦令是等ノ障碍ナキヲ得ルニ教授時間中或ハ破管ヲ曲ゲ或ハ塞子ヲ突ツ等ノ事ヲ為スハ徒ニ貴重ノ時間ヲ費スノ患アルナリ

二 試験了シハ必其器械ヲ淨拭シテ器械函ニ復藏スルニ是レ之レヲ怠テ薬品ヲ盛ルルノ瓶子等ヲ大氣ニ曝露セシムルハ其ノ薬品ノ一部之レガ爲ニ瓶子ノ内面ニ附着シ他レ之ヲ使用スルノ際大ニ困難ヲ生ズルヲアラントス又試験中ニ生ジタル硝子ノ破片管ハ切片モルノ碎

片等ハ莫ニ些細ノ物タリト雖亦務テ拾收シテ棄リ可カラズ是レ他ノ試験ヲ行フニ當リテ必各要スル所アルハナリ若シ過テテ玻璃瓶等ヲ破碎スルコトアリハ其破片ノ如キ亦之ヲ貯フベシ他レ必不用キル所アラントス又水素ヲ製シタル後其ノ殘全ノ逆器ノ如キ其他凡テ薬品ノ尚亦再々用キルニ堪フベキモノアリハ次レテ之ヲ放棄スルコトナリ必不貯フベシ敗鼓ノ皮ヲ遺スナキモノハ理化學教師ノ良ナリ

三 器械ハ必シニ器械師ノ製造シタルモノヲ用キテ要スズ教師ケク工夫カト午扱トヲ布スルアラハ大抵皆自之ヲ製スルヲ得ベシ縦シヨリ午エヲ要スル器械ハ則之ヲ購求スルモ一器具ヲ以テ彼此ニ流用シ又或ハ世尙善暹日用ノ器具等ヲ以テ高價ナル器械ニ代用スル

一 加如キハ教師ノ學識ニ從テ爲シ得可キ所マシテ學校ノ經費上ニ一大影響ヲ及ボスベキモノナシバ理化學教師タルモノハ當ニ深ク意ヲ致シ用サガレ可カラズ

四 教科書ニ載スル所ノ器械藥品中其得ルニ難キモノハトキハ他物ヲ以テ之ニ代用スベク然ラザレハ全ク別種ノ試験ヲ以テ之ヲ補フベシ例ハ小學化學書中ノ炭酸筒ノ如キハ蓋シ之ヲ得ルニ苦シムノ地方ナシトマス則チ之ニ代フルニ大蠟燭ヲ以テスルカ如キ是レナリ

五 教授中セノ諸件ニ注意ス可シ

一 試験ハ全生徒ノ實觀シ得ベキ所ニ於テ之ヲ行フベシ若シ齊シク觀セシメ難キノ妨障アリ因テ生徒ヲシテ其側ニ進ミシム可キトキハ其人数ニ依リ適宜

ニ之ヲ教群ニ分テ逐次一群ヲ呼ビス可シ。揮居ノ美ハ各生徒ニ附シテ觀察セシムルニ可ナリ但有毒品ハ此ノ例ニアラズ

二 若シ危險ナル試験ヲ行フ所ハ殊ニ注意ヲ加ヘ其ノ試験ヲ行フノ處ト生徒ノ席トヲシテ可成的離隔セシムルヲ要ス

三 悪臭アル氣體或ハ有毒ナル氣體ノ試験ヲ行フトキハ室内空氣ノ流通ニ注意シ可成的氣體ヲシテ室内ニ止ラザラシムルヲ要ス

四 試験中少ク余向アルモノ必向答等ヲナスモノ空ク時ヲ預スベカラズ

由 教授ヲ始ムルノ前必器械ノ裝置ヲ整ヘ一試験ハ必一日ニシテ之ヲ終リムルヲ要ス

第三 物理学教授法

物理学化学兩科ノ教授法ハ俱ニ実地試験ヲ以テ基トス  
ハモノニシテ其実地ト多少ノ異同アリト雖概同一ノ法  
分ニ依ルモノトス  
先ツ前ニ教授スル所ノ事項ヲ復習シテ生徒ノ既ニ明解  
了知セラルヲ認メ而シテ後今日方ニ教ヘントスル所ノ事  
項ニ進ム可シ此ノ事項若シ前日ヨリ連続スルモノナラ  
シニハ復習ニ尋テ直ニ向答法ヲ用キ生徒ノ思想ヲ漸  
々今日方ニ教ヘントスルノ事項ニ向ハシム可ク又前日授  
ル所ノ事項ト係連スルコトナク全ク別無事項ナラシニ  
ハ最平易ノ委例ヲ引テ説キ起シ漸々生徒ノ思想ヲ喚發  
ス可ク斯ノ如クニシテ生徒ノ思想ヲニ其教ヘントスル  
所ノ事項ヲ要領シ得可キノ地アルニ至ラハ則試験ヲ行

テ其事実ヲ認識セシメ而シテ其事實ニ依テ知り得ル  
キ道理(即始ヨリ教ヘント欲シタルモノ)ヲ確定シ次ニ此  
ノ事項中ニ用キタル言語ノ熟字ヲ教ヘ而シテ後教科書  
ヲ讀テ其講究シタル部ヲ誦讀セシム可シコレヲ通常ノ  
法トス若シ亦附隨説話ス可キ事項等ノアルアラハ其ノ  
教授ノ主眼タル事理ヲ確定シタル後或ハ教科書ヲ誦讀  
シタルノ後更ニ之ヲ授クハ可シ

物理学教授法一例

題目 水ヨリ重キ物俵ノ水中ニ沈入スル時ハ之ガ為ニ

排出セラル水ノ重量ニ等シキ重量ヲ減ズ

教、汝等復日阿又ハ海ニ游泳マシテアリヤ

生、アリ

教、其時水中ニ於テ水石ヲ動カシタルアリヤ

生、アリ

教、其ノ石ノ水中ニ在ル時ト氣中ニ在ル時トノ輕重如何

生、水中ニテハ輕ク水ヨリ出マハ重ク 級決 教可

若シ右ノ問答中知ラズト云テモノ多數ナレハ則友ノ試換ヲ行フベシ

教、汝等河海ニ遊ビシトナクハ爰ニ一ノ試換法アリ石

ノ水中ニ在ル時其重量如何ナルヤヲ試ムルニ是ラ

シ先ヅ此ノ物ハ何物ニテ選レルヤ(糸ヲ以テ小石ヲ縛シ短小ノ桿端ニ繫ケタルモノヲ示ス)

生、石ヲ糸ニテ縛リ棒ノ頭ニ繫ケタルモノナリ 級決 教可

教、然リ其生来テ之ヲ持テ 生、命ノ如クス

教、(某ノ生ニ向ヒ)其重量サヲ感じ而ル後其ノ石ヲ此ノ桶

水中ニ入レヨ(水ヲ盛りタル桶ヲ出ス)

生、命ノ如クス

教、其重量如何再三出入シテ其重量ノ変化ヲコトハシ

ヨ

生、命ノ如クス

教、其ノ輕重如何

生、水中ニ入ルハ輕ク水ヨリ出マハ重ク

教、他生一人ツ、来テ今甲生ノ為ニ如ク石ノ輕重ヲ試

ヨ

生、生徒尽ク之ヲ試ム

教、(全級ニ向ヒ)石ノ輕重ハ如何

生、水中ニ入ルハ輕ク水中ヨリ出マハ重ク

可 級決 教

教、今物体ヲ水中ニ入ルルハ輕クナルヲ知シリコト

ヨリ其重量ノ減ズルハ幾何ナルヤヲ試験スルニ因

テ先ヅ物ヲ水中ニ入ルルハ其ノ水ノ積ニ變化ス

ルヤ否ヲ試ミン汝等湯ニ入リシ時湯ノ増減ニ就テ

見タルコトアリヤ

注、体ヲ入ルルハ湯則増ス 級次 教可

教、然ラン今炭ニ一試験ヲ行フニ一硝子器ヲ取り之ニ

水ヲ盛ルコト一羊墨ヲ以テ其ノ水面ノ處ニ線ヲ附

シ之ニ一物体ヲ投ス水ノ積如何

注、増セリ

教、猶ホ其ノ器ニ水ヲ溢ル、逆注加シ一物体ヲ入ル如

何

注、水溢レタリ 級次 教可

教、此ノ溢レ出タル水ノ分量ハ幾何ナリヤ今之ヲ試験

シテ汝等ニ示サン(黄銅製円筒及円柱ノ註ヲ精密嵌

マルモノ即アルキメデニ試験用ノ円筒円柱ヲ取り

此ノ器ノ構造如何

注、其ノ見ル所ヲ以テ答フ 級次 教可

教、然ラハ此ノ円筒ノ空處ト円柱トハ其積相等シキヤ

否ヤ

注、均シ 級次 教可

教、(液体側壓試験筒)又ハ小桶ノ上部ニ小孔ヲ突ケコル

クヲ嵌メ此亦、コルクニ短キ硝子管ヲ通シタルモ

ノヲ取り之ニ其管ヨリ溢ルルマデ水ヲ盛ル

見ヨ此ノ桶ニハ管ヨリ溢ルルマデ水ヲ入レタリ今

一物体ヲ此ノ水中ニ入ルルハ水必此ノ管ヨリ流

出ス可シ其ノ水ヲ他器ニ受ケルハ其ノ分量ヲ知得

ベシ(彼ノ内筒ト円柱トヲ取り去ラ以テ円柱ヲ懸垂

シ内筒ヲ管口ニ當テ而シテ徐ニ円柱ヲ水中ニ入ル

ルハ水ハ管口ヨリ流出シテ内筒ニ入り殆ド滿盛セ

シ是ニ於テ内筒ニ入りシ水ハ何故流出マレド

生、内筒ヲ水中ニ入レシニ因テ溢シ出タルナリ可級決教

教、然リ語ヲ更ヘテ之ヲ言ハハ内筒ノ水ヲ排シ出シタ

ルナリ其ノ分量ハ幾何ナリヤ

生、殆ド内筒ニ滿ルノ量ナリ

教、内筒ノ積ト円柱ノ積トハ如何ナリレヤ

生、同積ナリシ

然、然ラハ内筒ニ入レタル水ノ積ト円柱ノ積トハ如何級決教可

教、然ラハ内筒ハ幾何ノ水ヲ排出セラルヤ

生、内筒ノ水ヲ排出セリ

教、今一物体水中ニ沈入スレハ同積ノ水ヲ排出スルコ

トヲ知レリ是ヨリ其物体ヲ減去スル重量幾何ナル

ヤヲ試ム可シ(前ノ内筒内筒ノ水分ヲ拭キ去リ内筒

ノ下底ヨリ内筒ヲ懸垂シ天秤ヲ取り去ラ以テ之ヲ

其一端ニ懸ケ他端ノ皿ニ分銅ヲ入レテ平均セシメ

天秤ノ平均如何

生、正ク平均セリ

教、其ノ分銅ノ重量ヲ黒板ニ書シテ之ヲ示シ而シテ後

水ヲ盛りタル小器ヲ内筒ノ下ニ置キ此ノ内筒ヲ徐

ニ沈ラシハ天秤斷リ分銅ノ方ニ傾シ今天秤ノ状ハ

如何

生、圓柱ノ方輪ヲナシリ 級決 教可

教、分銅ノ数ヲ減ジテ再ビ平均マシム 今天秤ノ状ハ如

何

生、平均セリ 級決 教可

教、一其ノ減キ忒リタル重量ヲ黒板ニ書コテ示シ是

ハ何ノ重量ナリ

生、円柱ヲ水一入シタルユ一減ジタル重量ナリ

教、一次ニ此ノ減キ忒リタル分銅ヲ故ノ皿ニ復シテ円筒

ニ水ヲ盛ルバニ水満シハ秤ヲ平均ス 今天秤ノ状ハ

如何

生、平均セリ 級決 教可

教、何故ニ平均マリヤ

生、円筒ニ水ヲ入シタルガ故ナリ 級決 教可

教、此ノ円筒ニ入シタル水ノ重量ハ幾何ナリヤ

生、円筒ノ水中ニ沈入シテ減失シタル重量ニ均シ即若

干夕ト馬ト級ニ表

級決 教可

教、此ノ水ノ積ハ幾何ナリヤ

生、円筒ニ満ツル積ナリ 級決 教可

教、然ラハ其積ト円柱ノ積トノ関係如何

級決 教可

教、已ニ円柱ノ水中ニ沈入シテ減失シタル重量ト円筒

ニ入りタル水ノ重量ト均ク又円柱ノ積ト円筒ニ入

シタル水ノ積ト相同シキヲ知シリ然ラハ円柱ハ水

中ニ沈入シテ幾何ノ重量ヲ減失マリト云フベキカ

生、円筒ノ水ノ重量ト円一ノ重量トヲ減失マリト云フ

級決 教可



結論

- 一、物体水中ニ入ルハ則水ヲ排出シ其重量ヲ減ス
- 二、其排出セラルル水ハ物体ト積ナリ
- 三、物体ノ減失スル重量ハ排出セラルル水ノ重量ニ均シ

四、故ニ物体水中ニ沈入スルキハ其重量ヲ減ズルコト  
 之ガ為ニ排出セラルル水ノ重量ト均一ナリ

化學教授法一例

題目 硬水柔水ノ別

教 吾人ノ平常飲用スル所ノ水ハ何處ヨリ得ルヤ

生 井、樽、泉、雨 級次 教可

教 井水、泉水等ハ如何ニシテ生ズルヤ

生 地中ヨリ湧キ出ツ 級次 教可

教

然リ然シドモ水ハ元来地中ニ在ルニアラス云々(是

ヨリ水ノ地下ヲ流ルハ所以及其ノ土中ニ在ルノ際

種々ノ物質ヲ溶解(含)蓄(貯)シテ清純ヲ成シ然ルハ井水

モ河水モ泉水モ大抵他ノ物質ヲ溶解(含)蓄シテ清純

ナルモノ稀ナリ而シテ其ノ水ニ溶在スル物質中最

多キモノハ石灰質ニシテ此石灰質ヲ含メル水ハ之

ヲ硬水ト謂ヒ製造上ニモ用キルコト難ク其石灰ヲ

含ムノ量又キモノハ至テハ飲料ニモ供シ難ク又蒸

氣鏡ニ用キテ殊ニ害アリトス故ニ水ノ石灰質ヲ含

メルト否トヲ識別スルハ甚緊要ノ事務ナリ汝等石

鹼ヲ用キテ水中ニ牛ヲ流クニコトアリヤ

布リ或ハ魚シ 級次 教可

教 石鹼ヲ用キテ水中ニ牛ヲ流クニトキ水中ニ異状ヲ

生、注セシコトアリヤ否ナ

生、由濁ヲ生ゼリ或ハ知ラズ

級次 教可

教、汝等亦、充分ニ経験シタルコトアラバ、今爰ニ石鹼

ヲ水中ニ入レテ示スベシ(先雨水或ハ蒸溜水ヲ二箇

ノ試験管ニ盛り)是ハ雨水又ハ蒸溜水ニテ清純ナリ

又石鹼塊ヲ取リ汝等此物ヲ知シリヤ

級次 教可

生、知ラズ或ハ知シリ

教、金石學ニテ學ビシコトアルナラン是ハ此レ石鹼ト

称スル物ニシテ其質石灰ヲ含メリ土中ニ存スルコ

ト頗ル多キが故ニ間井水、河水等ノ中ニ溶在ス令之

ヲ粉末トナシ此ノ雨水中ニ溶解ス可シ(其ノ粉末ヲ

一試験管中ニ雨水ニ投ジテ振蕩シ文火ヲ以テ之ヲ

熱シ而シテ後其ノ末が溶ケガハモ、ラ濾過シ)此ノ

生、中ニハ何物アリヤ

教、石鹼溶在ス

生、他、而水ヲ入シタル試験管ヲ取リコレハ何ナリヤ

水、純水、而水ナリ

教、此ノ両管ノ水一見シテ其ノ異ナルヲ知り得ベキヤ

生、異ナル所無キか如ク見ユ

教、然レドモ現ニ一方ハ純粹ノ雨水ニシテ一方ハ石鹼

ヲ溶解セタル水ナリ之ヲ鑑別スルノ法別ニアリ今此

ノ両方ニ石鹼ヲ加ヘテ如何ナル差々アルカヲ見シ

茲ニ石鹼ヲ取テ之ヲ示シ一管ニ雨水ヲ盛り石鹼ヲ

削リ水中ニ投スルコト少許文火ヲ以テ之ヲ煮シハ

生、融液トナシ是ハ何ナリヤ

教、石鹼ヲ溶ニタル水ナリ

級次 教可

教

然リ今以ノ石鹼水ヲ此ノ兩管ノ水ニ注加セシ汝等  
其ノ結果如何ニ注目マヨ(茲ニ少量ノ石鹼水ヲ注加  
シ如何

生

雨水ノ方ハ多ク泡ヲ生ズ  
白キモノヲ生ゼリ

級次 教可

教

高多量ノ石鹼水ヲ注加シ兩管ヲ充分ニ振盪シテ如  
何

生

雨水ノ方ハ多ク泡ヲ生ズ

級次 教可

教

石鹼水ノ方ハ白キ浮動物ヲ生ゼリ

級次 教可

然リ凡テ石鹼質ヲ含メル水ニ石鹼水ヲ加フレハ必  
白ク軟カナル浮動物ヲ生ジ多量ノ石鹼水ヲ加ヘザ  
レハ其ノ水柔軟ナリ其ノ石灰質ノ塊キ水ハ唯水泡  
ヲ生ズルノミニシテ濁ル下下キキニ縮シテ柔軟ナ  
リ故ニ硬水柔水ノ名アリ

汝等若シ石鹼ヲ以テ水水ニテ洗ヒ水面ニ白キ浮

動物ヲ生ズルコト了ラハ其ノ水ノ何質ヲ溶解スル  
ヲ知ルヤ又之ヲ何水ト云フヤ

生

石灰質ヲ含メル硬水ナリ

級次 教可

教

今硬水柔水ヲ識別スルノ方途ヲ知レリ爰ニ亦一種

ノ硬水アリ(即石灰水ヲ取テ之ヲ示シ試験管ニ盛リ  
人ノ口ヨリ吹キ出ス氣ハ何ナリヤ(是レ前日既ニ教  
ヘタル所ナルバケレハナリ

生

炭酸ナリ

級次 教可

教

如何ニシテ之ヲ知ルヤ

生

之ヲ石灰中ニ吹キ入ルレハ白濁即炭酸石灰ト云フ  
モノヲ生ズレハナリ

級次 教可

教 然り今其ノ試験ヲ及覆ス可シ(石灰水ニ吹氣ヲ吹

キ入シ白重ヲ生ジタルトキ之ヲ示シテ着ヨ此ノ如

ク白重ヲ生ジタリ今尚多クノ炭酸ヲ吹キ入ルニ(五

分間<sup>許</sup>吹ケハ白重漸ク消失ス是ニ於テ如何ニ變マ

生 白重次第ニナリタリタリ 級次 教可

教 即溶解シタルナリ抑白重ハ純粹ナル水ニハ解ケケ

シトモ炭酸氣ヲ含メル水中ニハ溶解スルモノナリ

今此ノ白重ノ解ケタル水ノ性質ヲ試ミルハ(此ノ

水ヲ二個ノ試験管ニ分注シ視ヨ此ニ石炭水ヲ注

加マン(注加シテ如何

生 白キ浮游物ヲ生ズ 級次 教可

教 即溶解シタル水ナリ石炭ヲ溶カマル水ニ注加セル

時ノ如シ然ラハ此ノ水ヲ何水ト謂フ可キヤ

生 硬水ト謂フ可シ 級次 教可

教 然り石膏モ白重モ俱ニ石灰質ヲ含メルモノナリハ

此ノ二水ハ均シク是ト硬水ナリ又白重ノ溶解マル

水ト石膏ノ溶解マル水トヲ取り両方ヲ煮テ之ヲ示

生 白重水ノ方濁レリ 級次 教可

教 然り石膏水ノ方ハ煮レドモ變マス白重水ノ方ハ煮

レハ則濁ル其濁ル所以如何

生 知ラズ

教 其濁ル所以ハ元素白重ハ炭酸氣アル水ニ溶在シタ

リシガ水中ノ炭酸氣熱ノ爲ニ蒸散シタルハ故ニ其

ノ溶在シタリシ白重モ炭酸氣ノ變ヲ失ニテ斷クノ

如ク不溶解質トナリタルナリ今此ノ沈殿シタル白  
重ヲ濾シ取り其濾過液ニ石鹼水ヲ加ヘ是レ其ノ  
ノ如クニ如何

生、  
変セズ

級次 教可

教、  
然ラバ是レ何水ナリヤ

生、  
柔水ナリ

級次 教可

教、  
然リ前キニ硬水ナリシモ今ハ柔水トナシハ是レ何  
故ナヤ

生、  
白重ノ溶在ニタルヲ沈殿シテ濾シ取り大ナリタル  
ナリ

教、  
然リ是レ硬水ヲ柔水ニ変ジシムルノ一法ナリ又此  
ノ如ク石膏ヲ溶解含蓄スル硬水ハ蒸シモ変ジザル  
ニ白重ヲ溶解含蓄スルモノハ蒸シハ別柔水ニ変ズ

故ニ甲ヲ永時硬水ト謂クシヲ一時硬水ト謂フ  
義ニ又白重ヲ溶解含蓄スル硬水ヲ柔水ニ変ジシム  
ルニ一法アリ今一個ノ試験管ニ入シタル白重硬水  
ヲ取り之ニ石灰水ヲ注加シ如何

生、  
濁シリ

教、  
然リ今是ヲ濾過シテ其ノ水ニ石鹼水ヲ注加シ見ン  
其言ノ如クニ如何

生、  
濁ラズ

教、  
然ラバ此濾過液ハ何水ナリヤ

生、  
柔水ナリ

教、  
然リ是レハ石灰水ヲ加ヘタル為メニ彼ノ白重ヲ溶  
在ニタル炭酸氣此ノ石灰ト化合シテ白重ハナシリ  
故ニ此ニ生ニタル白重モ前キ炭酸氣ノ為ニ中ニ溶

故ニ此ニ生ニタル白重モ前キ炭酸氣ノ為ニ中ニ溶

故ニ此ニ生ニタル白重モ前キ炭酸氣ノ為ニ中ニ溶

故ニ此ニ生ニタル白重モ前キ炭酸氣ノ為ニ中ニ溶

在ニタハ白垂天僕ニ沈殿シタハナリ故ニ鹽液ハ石  
灰質ヲ含メガハルノ柔水ナリ

結論

一、石灰質ヲ含メル水ヲ硬水ト謂ク石灰質ヲ含マザル  
水ヲ柔水ト謂フ

二、硬水柔水ヲ識別スルニハ石炭ヲ以テス硬水ニ石炭  
水ヲ注加スレハ白キ軟カナル浮游物ヲ生ジ柔水ニ  
石炭水ヲ加フレハ唯泡沫ヲ生ズルノミ

三、硬水ニ永時一時ノ二種アリ永時硬水トハ石膏ヲ溶  
解含蓄セル水ヲ云ク一時硬水トハ白垂ヲ溶解含蓄  
セル水ヲ謂フ

四、永時硬水ハ之ヲ蒸ルモ變ズルコトナク一時硬水ハ  
蒸トハ別柔水トナル

五、一時硬水ハ亦石灰水ヲ加フレハ柔水トナル

生理學

第一緒言

人身ノ構造ヲ觀察シ其諸部ノ効用ト運營ノ機軸トヲ講究シ以テ身體ノ衰弱ヲ豫防シ且健康ヲ保持スルノ方法ヲ識得マシムルハ生理學ノ主眼トスル所ニシテ諸学科中各自ノ身體ニ直接ノ利益ト幸福トヲ感シヤシムル蓋シ此ノ科ノ右ニ出ズルモノ無ク可シ而テ人身ハ其構造最完全ニシテ且最高尚ナルモノナリハ之ガ精妙ノ組織及機軸ヲ學習マンニハ豫メ先動物植物物理化學等ノ智識ヲ備フルニアラガシハ恐クハ明確ニ之ヲ理會スルト能ハザラントテ何トテハ感覺器ト謂ク筋肉関節ト曰ク消化呼吸血液神經ノ諸系統ト曰ク此等諸学科ノ附屬セハ定則系統ニ依テ解剖スベキモノナリテ以テナリ蓋

小學校教則綱領ノ高等科ニ至テ始テ生理學ヲ授ルベキ  
モノトテスモ亦此ニ由ルカ

此ノ課ヲ教授スルニ方リ其人身ノ外部ニ関スル諸件ニ  
至テハ務テ生徒自己ノ身体ニ就テ其ノ理ヲ觀察セシム  
ベク而シテ其ノ深ク隱伏シテ得テ目視スベカクナル生  
活機能ヲ講明セシムルニハ下手動物即猫鼠魚蝦蟇等ヲ  
解剖シ其ノ機能ノ構造關係ヲ比較シテ詳密ニ之ヲ教示  
スルヲ必要トス殊ニ血液循環ノ状ヲ知ラント欲セハ顯  
微鏡ヲ取テ蝦蟇ノ足膜或ハ猫鼠ノ外耳ヲ用テ之  
ヲ透見視察セハ真正ノ觀念ヲ把握スルヲ得ルニ其他各  
種植物ノ如キモ亦以テ人身各部ノ機能ヲ理會スルノ媒  
介ト為スベキ緊要物料ナレハ機能ニ投ジテ之ヲ採用スベ  
ク彼ノ模形図画ノ如キハ素ヨリ準備セザル可カラズト

魚獨リ之ニノミ依拠スルトキハ却テ誤謬ヲ生スル虞亦  
少シトナサズ故ニ可成の実験教授法ニ如從ルニ如カサ  
ハナリ

### 第二教授法一例

- (一)大意 血液及血球ノ觀念ヲ開發シ且文字ヲ教授ス
- (二)題目 血ハ赤色ノ液体ニシテ極微ナル血球ヲ含蓄ス  
血球ハ扁平円体ニシテ例ハ貨幣ノ形ノ如シ

### (三)方法

教 汝等今余ガ問フ所ヲ靜聽シ適當ニ之ニ答ヘンコト  
ヲ務ムベシ

汝等嘗テ身体ニ傷痕ヲ受ケタルコトアリハシ  
生 屢之ヲ受ケタルコトアリ又之ヲ見タルコトアリ  
教 傷ヲ受ケタル時先其部ニ如何ナル変化ヲ見ハヤ



生、血ノ出ルヲ見ルナリ 教可

教、血トハ如何ナルモノナリヤ

生、其色赤クシテ流動スルモノナリ 級決 教可

教、之ヲ枚上ニ書スベシ 書枚 各唱 教可

教、豫テ準備シタル顕微鏡ヲ一机上ニ置キ汝等之ヲ知

レリヤ

生、顕微鏡ナリ 既ニ生理ヲ学ブ地位ニ達セハ生徒ハ觀

教、唯ニ其用ヲ茲ニ細説スルヲ要セズ 今余此ノ鏡下ニ一鱗ノ人血ヲ置ケル汝等順次ニ果

教、テ之ヲ視察セヨ 各次ニ三人ヲ連テテ席ヲ離シ来

教、汝等今人血ニ就テ如何ナルモノヲ見出マレヤ

生、象生學年

教、甲生之ヲ語シ

生、最多ノ圓形物ヲ見タリ 級決 教可

教、円形ニ數種アリ今換出シタルモノハ如何ナル円形

生、ゾ抑砂粒ノ如キカ時々豆子ノ如キカ詳ニ之ヲ語シ

生、周圍ハ正円形ニシテ实体ハ扁平ナリ 級決 教可

教、其ノ形ヲ譬フルニ何物カ最能ク之ニ類似スルヤ

生、銅貨或ハ銀貨ノ形最之ニ近似マリ 級決 教可

教、其ノ円形ノモノヲ何ト名ク汝等コシテ知シリヤ否

生、血球ト名ク 級決 教可

教、然レハ血ノ中ニ含蓄マラル、モノハ何物ナリヤ

生、血球ヲ含蓄ス 級決 教可

教、今血球ハ顕微鏡ノカニ依テ纒々内眼ノ鏡ヲ実視ス

ハニ堪フベキ者ナリ汝等其实体ノ大ヲ想像シ得ル

生、極メテ細微ナルモノニシテ莫ニ考テ可カラズ教可  
 教、余今汝等ニ其學習ニタル所ヲ約言スルヲ望ム抑  
 生、血トハ如何ナルモノガ  
 教、何物ヲ含蓄スルヤ  
 生、極微ナル血球ヲ含蓄ス  
 教、誰カ来テ此ノ二語ヲ連合ニテ板上ニ書スバニ  
 生、一生命ニ從ヒ血ハ赤色ノ流動物ニシテ極微ナル  
 教、血球ヲ含蓄ス ト書ス  
 教、血球ハ如何ナルモノガ  
 生、血球ハ扁平ニシテ円ノ其形貨幣ニ似タリ 教可  
 教、誰カ来テ之ヲ板上ニ書マ

各唱教可

生、其ノ言ノ如クス  
 教、汝等手簿ヲ出シテ之ヲ記載セヨ  
 (注意) 時間既ニ迫ルトキハ生徒ヲシテ學習マシテ所ヲ言  
 ハシメ教師自板上ニ書スルモノ可ナリ但緊要ナル文字  
 ハ其觀念ヲ因テシタル後並ニ板上ニ書マンコトヲ要  
 ス若シ時間ニ餘リアレハ顕微鏡ヲ以テ他ノ諸動物ノ  
 血液ヲ視察ニ以テ人血ト比較セシムルハ亦余筆ノ大  
 ニ欲スル所ナリ  
 右ニ掲グル一例ハ血液ニ関スル教課ノ一小部ヲ示スニ  
 過ギズ而シテ其循環ニ関スル諸項ニ至テハ更ニ一ノ鱗  
 長ナル教授法例ヲ要ス然レドモ其循環ノ理ニ就テ其ノ  
 紙頁大ニ加ハラントラ恐レテ姑ク筆ヲ此ニ摺ル

# 幾何課

## 第一緒言

凡ソ諸學科中其原理正確ニシテ萬世動クモトナク且ツ一  
其原理ノ應用独ニ著実正當ニシテ疑モ疑ヲ其間ニ容ル  
ベカラザルモノハ算術及幾何學ヲ以テ最トス蓋シ宇ハ  
物數ノ理ヲ研究シシハ唯物形ノ象ヲ講明スルノ學科ナ  
ルハナリ是ニ由テ考フルニ此ノ二學ハ筆力ヲ練磨スル  
ノ最要具トス而シテ此ノ二學ヲ講習スルハ其ニ推理力  
ヲ要スルコト甚大ナリ抑推理力ハ元來高尚ノ心力ニシ  
テコレヲ發育練磨セムト欲セハコレガ教師タル者非常  
ノ注意ヲ加ヘザル可カラズ苟モ注意ヲ缺カトキハ倍ニ  
其ノ切ヲ奏スルコト能ハザルニミナラズ傍生ノ弊屣亦  
擧テ言フ可カラズ然レドモ其美術教授法ノ如ク既ニ前

編ニ略載セシヲ以テ此ニハ唯幾何學ヲ教授法ノミニ處テ  
一例ヲ示サントス

幾何學ヲ修ムルニハ推理力ヲ要スルコトニ前陳ノ如  
シト雖然シドモ單ニ推理力ヲシテ發育セント欲シ教授  
ノ際徹頭徹尾一ニ推理力ヲ養成スルニ汲々トシテ而シテ  
其推理力ノ申テ来ル所ノ原由觀察記性ノ諸能カヲ開發  
スルニ怠ルガ如キハ所謂本ニ縁テ魚ヲ求ムルノ魚ニシ  
テ到底其ノ目的ヲ達スル能ハザルナリ是ノ故ニ幾何學  
中其ノ何ツレノ條項ヲ授クルニ論ナリ必先觀察力ニ訴  
ヘ次テ記性力ニ訴ヘ而シテ後之ヲ推理力ニ訴ヘ以テ其  
ノ條項ノ理ヲ領解マシコトヲ務ムルハ實ニ最モ緊要ノ  
目的ナリ余輩ガ前編ニ掲出セシ教授ノ主義中夫ノ布形  
ヨリ魚形ニ入レトノ一言ハ幾何學教授上須臾モ忘ルヘ

カラザルノ宝殿ニシテ厚ク遵守マザンバアハ可カラズ  
今右ニ掲出スル所ノ教授法ノ如キモ亦此ノ主義ヲ擴張  
布演シタルニ過ヤズ之ニ依テ苟モ教授上ニ裨補スルア  
ラハ實ニ編者ノ幸ナリ

第二幾何學教授法一例

題目 静水ノ面ニ密接スベキ直線ヲ水平線ト云フ

方法

教 汝等河水及池水ヲ見タルコトアリヤ

生 アリ

級決教可

教 兩水ヲ比較セハ如何ナル差異アリヤ

生 河水ハ流シ去シドモ池水ハ然ラズ

教可

教 兩水ノ面ヲ比較セハ如何ナル差異アリヤ

生 河水ノ面ハ動キ池水ノ面ハ平ナリ

級決教可

教、若し風雨ノ池水ヲ昇スアテハ其面ニ如何ナル麦ヲ  
生ズルヤ

生、動キテ波ヲ生ズ

教、然ラハ水ノ面ノ平ラカタラザルハ如何ナルトキニ

在リヤ

生、其ノ動ク時ニアリ

教、平ラカナルハ如何ナル時ニアリヤ

生、其ノ静カナル時ニ在リ

教、水ヲ流テタル一玻璃ヲ机ニ置キ水面ノ静定スル

ヲ待テテ向コ此ノ玻璃中ニ在ルモノハ何ナリヤ

生、水ナリ

教、如何ナル状勢ノ水ナリヤ

生、静カナル水ナリ

教、静カナル水ト書マヨ

生、静水ト書ス

教、之ヲ読メ

生、セイスイ

教、其ノ字義ハ如何

生、静カナル水ノ義ナリ

教、一玻璃ノ水面ヲ指シ此ノ處ヲ何ト云フヤ

生、面ト云フ

教、面ノ字ヲ書マヨ

生、言ノ如クス

教、何ノ面ナリヤ

生、水ノ面ナリ

教、如何ナル水ノ面ナリヤ

級次 教可

級次 教可

教可

級次 教可

級次 教可

級次 教可

級次 教可

級次 教可

教可

級次 教可

生 静カ十八面ノ水ナリ 級次 教可

教 (尺許ノ細糸ヲ示シテ向コ是ハ何ナリナ

生 糸ナリ 教可

教 (面ナリ以テ其ノ糸ヲ引キ張リテ向コ今余ハ糸ヲ如

生 何ヤシヤ 教可

教 引キ張レリ 此ノ糸ノ形状ヲ板上ニ寫シ出サントス如何ス可キ

生 ヤ 級次 教可

教 線ヲ以テ之ヲ寫ス可シ 如何ナル種委ノ線ヲ以テスルヤ

生 直線ナリ 級次 教可

教 糸テ之ヲ画ケ 級次 教可

生 横ニ直線ヲ引ク以下糸同ジ 級次 教可

教 (又糸ヲ縦ニ引キ張リテ曰ク此ノ糸ノ形状ヲ画ケ

生 級次 教可

教 縦ニ直線ヲ画ク 級次 教可

生 (又糸ヲ斜ニ引キ張リテ曰ク又此ノ糸ノ形状ヲ画ケ

教 級次 教可

生 斜ニ直線ヲ画ク 級次 教可

教 余ハ今極メテ緊要ノコトヲ汝等ニ教ヘントス能ハ

生 意シテ余ガ為ス所ヲ見ヨ(即糸ヲ横ニ引キ張リテ徐

教 二玻璃ノ水面ニ密接マシメテ向コ今余ハ如何ナリ

生 コトヲナシヤ 級次 教可

教 糸ヲ水面ニ密着シタリ 級次 教可

生 今ノ糸ノ形状ヲ画ケ 級上ノ在方前ニ引キタ

教 横ニ直線ヲ画ク 級次 教可

教、今画キタル線ハ如何ナル線ノ種委ナリヤ

生、直線ナリ 教可

教、其ノ直線ハ何ヲ表出シタルモノナリヤ

生、水面ニ密接シタル糸ノ形状ヲ表出シタルモノナリ

教、然ラハ此ノ線ノ方向ト水面ノ方向トハ如何ナル関

係ヲ有スバキモノナリヤ 級次 教可

生、同一ノ方向ナラザルバカラス

教、之ヲ證明スルノ方アリヤ 級次 教可

生、答フハモノナシ

教、之ヲ證明スルノ法アリ仔細ニ余ガ為ス所ヲ見ヨ

生、作ニ玻器ヲ捧ゲ其水面ヲシテ板上横線ノ点ニ觸接

ヤシメテ向テ玻器ノ水面ト横線トノ方向如何

生、同ジ方向ニアラズ 級次 教可

教、何故ニ同ジ方向ニアラザルカ

生、横線ヲ画シ後直キヲ得ガレハナリ 級次 教可

教、來テ同ジ方向ニ改メヨ

生、言ノ如クス 級次 教可

教、水面ト横線トノ方向如何

生、全ジ方向ニシテ恰ニ密着マリ 級次 教可

教、(玻器ヲ傾ケ器中ノ水少許ヲ注ギシテ後稍斜ニ之ヲ

捧ゲ再ニ横線ノ点ニ密着マシメテ向テ今水面ト横

線トノ方向如何

生、猶前ノ如ク同ジ方向ニシテ恰ニ密着シタリ 級次 教可

教、前ニハ玻器ヲ直ニシ今ハ之ヲ斜ニス然ルニ此ノ如

キ同結果ヲ得ルハ何ノ故ト思フヤ

教、

生、

教、

生、

生、 玻璃ハ傾リモ水面ハ傾カズニテ平ラカナルカユヘ  
ナラン 級決 教可

教、 然ラハ水面ニハ如何ナル特性アリヤ  
生、 平トナルノ特性アリ 級決 教可

教、 今画キタル横線ノ右分ト前ニ画キタル横線ノ左分トヲ  
比較セバ如何ナル差異アリヤ

生、 兩線ノ方向補差アルニ似タリ 級決 教可

教、 之ヲ證明スルノ方アリヤ  
生、 玻璃ノ水面ラ之ニ密接スルヲ得ン 級決 教可

教、 他ニ簡便、恣アリヤ  
生、 之アリ即定本ヲ以テスベシ 級決 教可

教、 然ラハ定本ヲ用サテ證明セヨ  
生、 一定本ノ一方ヲ後ノ横線ニ密着シ他方ヲ前ノ横線ニ

近接ニテ曰ク此ノ定本ト前ノ横線トハ其密着セザ  
ルコト此ノ如ク且ツ其ノ方向モ亦少ナリ相違ナリ  
コレヲ以テ兩線ノ同ジ向ガニアラザルコトヲ證明  
スベシ

教、 然ラハ後ノ横線ノ如キ直線ヲ畫カントスルニハ如  
何スベキヤ

生、 水面ニ據テ画クベシ 級決 教可

教、 此ノ如クニテ画キタル直線ヲ他ノ直線ト前ニ取上  
タル諸直線ヲ指スト區別セシニハ如何ナル直線ト称スベキ  
ヤ

生、 水面ニ密着スベキ直線ト称スベシ 級決 教可

教、 如何ナル水面ナルヤ  
生、 静カナル水面ナリ 級決 教可



教、密着ノ文字ヲ書ケヨ

生、言ノ如クス

級決 教可

教、然ラハ此ノ如キ直線ノ定義ヲ作シ

生、静カナル水ノ面ニ密着スベキ直線ナリ 級決 教可

教、此ノ如キ直線ニ特別ノ名称アリ 誰レカユレヲ知シ

生、水平線ト云フレハ教ユ 級決 教可

教、然ラハ水平線ノ定義ヲ作シ

生、静水ノ面ニ密着ス可キ直線ナリ 級決 教可

教、然ラハ水平線ノ定義ヲ板上ニ記ス

生、静水ノ面ニ密着スベキ直線ヲ水平線ト謂フト書ス

教、汝等既ニ水平線ノ何物タルヲ知レリ今此ノ机卓ノ

面果ニテ水平線ノ面ニ從ヘルヤ否ヲ證セントス

ハニ如何ナル方アリヤ

生、玻璃ノ水面ヲ机卓ノ縁ニ接シ若シ水面ト机面ト

方向ナルトキハ水平線ノ位置ニ從ヘルヲ證ス可シ

然ラカレハ水平線ノ位置ニアラザルヲ證スベシス

教、他ニ良法ナキヤ 級決 教可

生、答フルモノナシ

教、余ガ為ス所ヲ熟視マシ机卓ノ両端ニ玻璃ノ水面ト

略同高度ノ墨ヲ置キ其ノ向ニ糸ヲ引キ張リテ向コ

此ノ糸ト机卓ノ面ノ方向如何

生、全シ方向ナリ 級決 教可

教、何故ナリヤ

生、机卓ノ両端ニアル邊ノ高サ同シケレバナリ 級決、  
教、(一) 玻璃ノ水面ヲ引キ張レル糸ニ連接シテ問コ糸ノ方

向如何

生、二着ノ方向全ジカラズ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、  
生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

生、机卓ノ面トノ方向水平線ノ方向ニアラガレハナリ 級決、  
教、何故ニ然ク齟齬スルヤ 級決、

教、然ラハ机面ノ位置今ハ如何

生、水平線ノ方向ニ従テ

教、誰カ家屋ヲ建築スルノ際柱礎ヲ定ムルニ方テ石工

生、如何ナル方途ヲ以テ其蓋否ヲ換スルヲ知レリヤ

教、竹竿ヲ半割シ之ニ水ヲ盛りテ礎石上ニ安シ其水面

生、直否ニ據テ之ヲ換スルナリ

教、此ノ如キ水準ヲ標準ト稱シ建築家ハ常ニ之ヲ使用

生、セリ然レドモ近來更ニ巧妙ノ水準器アリ汝等他

教、必ズ之ヲ學習スルコトアラン

生、黙聽ス

教、定義ヲ書キ取ルン

生、言ノ如クス

教、静水ノ面ハ如何

級決、  
教、可

級決、  
教、可

級決、  
教、可

級決、  
教、可

生、平カナリ

教可

教、静水ノ面ト同心方向ナル直線ヲ何ト云フヤ

注、水平線ト云フ

級決 教可

教、水平線ト静水ノ面ト同心方向ナルコトヲ證セント

スハニハ如何ス可キヤ

生、兩者ヲ密着シ度モ間隙ナキトキハ以テ其ノ同心方

向タルコトヲ證スルシ

級決 教可

教、本四邊ナルモノハ何ナリヤ

生、水平線ナリ

教可

### 經濟課

#### 第一緒言

經濟ノ學タル政事法律等ノ學ト共ニ高尚ノ學科ニ屬ス  
 々ハ世人ノ善ク知ル所ニシテ之ヲ小學生徒ニ授ケント  
 スルハ抑其ノ當ヲ失スル如ク且之ヲ実験ニ徵スルモ頗  
 ル困難ヲ覺ユ然レドモ理財ノ事ナル實ニ人間生活ノ大  
 本ニシテ人タルモノ、必知了セザルベカラザルノ一大  
 緊要事ナレバ今普通人民ヲ教育スルノ小學校ニ於テ之  
 ヲ教授スルハ蓋シ理ノ當然ナリ果シテ必須ノ學科タル  
 以上ハ獨リ教授ニ困難ナルノ故ヲ以テ之ヲ棄却スベカ  
 ラザルハ固ヨリ言フ待タズ故ニ必ズ之ヲ教授スル、良法  
 良案見シ以テ其目的ヲ達スルハ則チ教育家ノ責任ナリ茲  
 ニ經濟學ヲ教授スルニナリテ最モ注意ヲ要スベキモノ

兩三事ヲ舉ゲン元來此學科ハ物理化學ノ如ク試驗ヲ以テ之ヲ證明スバカラス又美術何ノ如ク教或ハ形ヲ以テ之ヲキマベカラズ全ク腦裡ニ於テ外物ノ狀況ヲ推測スルノ學タルヲ以テ單ニ兒童ノ心ヲ能ク感度記應スルニ堪フノ事吹テ授ルニ止リ決シテ高尚ニ過グ可カラズ且夫此兒童ハ父母保育ノ中ニ在ラ多クハ未經濟學ニ論ズル所ノ事項ヲ實驗セザルモノナレバ殊ニ意ヲ此點ニ注ガザル可カラズ又經濟學ハ開修身ノ道ヲ勸ムニ於テ無ニ、好厥適例トナスベキモノヲ包含ス例ハ節儉勉渥ノ如キ是ナリ即是等ノ事ヲ授クルニ方テハ充分ニ生徒ノ感動ヲ喚起シ以テ修身經濟ノ二學ヲ其ノ腦裡ニ浸潤セシメンコトヲ務ムべし而シテ亦往々修身ノ道ニ背及サルモノ其ノ中ニ存セリ例ハ救物ノ如キ是ナリ

リ益シ以等ノ事項ハ稍高尚ニ過ギテ而シテ實用ニ適シズ且ク削除ス可キナリ其他通常ノ經濟書ハ縱ニ其ノ説ハ深遠ナラザルモノト雖多クハ吾成年以上ノ者ノ爲ニ作レルモノニシレテ書中ノ引例用語等ノ如キモ亦從テ兒童ニ授クルニ適マザルモノ少シトヤス故ニ教師タルモノ又常ニ用書ノ適否如何ニ注意セザルベカラズ其ノ教授法ノ一例ヲ示シテ參考ニ供ス是亦果シテ兒童ニ教養スルニ適スルヤ否伏テ着希ノ考慮ヲ待リ

第二教授法ノ一例

題目 勤勞ヲ加フベキノ物料、勤勞ヲ助ク可キノ器械、勤勞ヲ保持スルニ缺ク可カラザルモノヲ財トス

教、汝等今ハ父母ノ保育中ニ在ルヲ以テ衣食住一ニ不

自由ノ感アルコトナキモ食異カ父母ノ保赤ヲ離シ  
獨立ノ身トナラシニハ自衣食其ノ他生活上ニ必需  
ノ物料ヲ獲カルベカラズ如何シテ之ヲ得ント欲ス  
ルヤ

生、 勞作シテ金錢ヲ得以テ衣食其ノ他ノ物料ヲ買フル

此ノ如ク勞作スルヲ經濟學ニ勤勞ト稱ス(即勤勞ノ

字ヲ校上ニ掲書シテ其ノ意義ヲ問フ

は汝をリノ義ナリ

世ニ生活セル人ハ各身皆一種ノ勤勞ヲ執ルニ試ニ

其ノ種類ヲ舉ゲヨ

生、 學問スルモノアリ工業ヲナスモノアリ商業ヲ営ム

モノアリ農事ヲ執ルモノアリ其他何々

今余ハ工業ニ從事スル人ニ就テ向ヲ起ス可ニ即水

匠ノ家屋ヲ建築スルヤ其何物ヲ要スルヤ

生、 木材ナリ

木材ヲ削リ或ハ割リテ家屋ヲ構造スルノ諸料ヲ作

ハニハ又何物ヲ要スルヤ

鋸鉋鑿何々等ヲ要ス

生、 家屋ヲ建築スルニハ木材及工具ヲ要スルコト然リ

尚且工人ノ勤勞ヲ永久ニ維持スルニ又何物ヲ要ス

ルヤ

食物ヲ要ス

生、 食物ノミテ足レリヤ

知ラズ

教、 食物トモニ要用ナルモノアリ即衣服及住所ナリ此

級決 教可

級決 教可

級決 教可

級決 教可

級決 教可

級決 教可

級決 教可

級決 教可

級決 教可

ノ三者ナキトキハ生命ヲ保ツコト能ハズ生命ヲ保  
ツコト能ハガレハ勤勞スルコト能ハズ故ニ此ノ三  
者ハ獨木エノミナラズ何レノ業ヲナスヲ向ハズ必  
須缺クバカラザルモノナリトス

生、諾

教、然ラハ木エノ工事ヲ休スニ此ニハ家屋ヲ建築スル  
ニ就テ言フ必要ナルモノハ何々ナリヤ

生、木材、工具、衣食住ナリ 級次 教可

教、其ノ必要物守木材、工具ノ三者ト衣食住ノ三者ハ  
如何ナル差違アリヤ

生、木材、工具ハ家屋ヲ建築スルノ必要物ニシテ衣食住  
ハ勤勞ヲ保持スルニ必要物ナリ

教、勤勞ヲ保持スルニ缺クバカラザルモノハ何々ナリ

ヤ更ニ一タビ之ヲ語シ

生、衣食住ナリ 級次 教可

教、勤勞ヲ保持スルニハ尚キ此ノ他ニ要需ノモノアリ

トモ衣食住ハ其ノ最大緊要ナルモノナリハ他ノ些  
細ノ需要物ハ姑ク之ヲ畧ス却説此ヨリ以下專ラ木

材及工具ノコトニ就テ論究スベシ

教、木エノ木材ヲ削リ或ハ鋸リテ家屋ヲ建築スルハ何  
カ故ニ利益アルヤ 級次 教可

生、唯勤勞ト称スルハ漠然ニ過分更ニ精細ニ考察ヲ下  
ス可シ彼ノ木材ハ最初木エノ買ヒ来リシ時如何ナ  
ル形状ヲ為マルヤ

生、円長ナルモノアリ既ニ板トナリタルモノアリ何々

々

級決 教可

教、最後家トナリ時其形状如何

生、天井トナリ柱梁トナリ鴨居トナリ敷居トナリ床トナリ戸トナリ障子トナリ種々ニ其ノ形ヲ変ス

級決 教可

教、此ノ如ク木材ノ形ヲシテ種々ニ変セシムルハ何ヲ以テスルヤ其根源ヲ説シ

生、工具ナリ

教、工具ハ果シテ其根源ナリヤ試ニ木材及工具ノミアリトセンカ此ノニ物能ク家屋ヲ建築スルニ足ルベキヤ

生、解セリルエナハコトヲ

教、亦正確ノ答トナス可カラズ試ニニ木工木材工具ノ

三有ヲ並置スルトヤニカ能ク家屋ヲ建築スルニ足ルベキヤ

生、否不工且ノ午足ヲ勞シテ之ヲ使用スルニアラザレバ家屋ヲ建築スルニ足ラザルナリ

級決 教可

教、然リ不初ハば板をリ即勤勞ニ依テ其形状ヲ変ズルモノニシテ若シ勤勞ヲ加フルニアラザレハ其形ハ依然トシテ変ズルコトナシ

生、諾

教、不工ノ勤勞ヲ木材ニ加ヘテ其形ヲ變ズルニハ又何物ヲ要スルヤ

級決 教可

生、工具ヲ要スルナリ  
茲ニ甲乙ニ類シハ鉄ノ工具アリ同工人同勤勞ヲ以テ之ヲ使用スルトモ其ノ結果如何

年、甲ノ工具ヲ用テルトモ、其成果大ナリ 級決教可

教、同一人同勤勞ヲ加ヘ而シテ其ノ成果ニ優劣アルコ

ト此ノ如クナルハ何故ゾヤ

生、甲ハ物ヲ切ルコト速ニシテ乙ハ遅クシバナリ 級決教可

教、然ラハ工具ハ勤勞ニ對シテ如何ナル用ヲナスモノ

ナリヤ

生、其ノ助ケヲナスモノナリ 級決教可

教、然ラハ前ノ本材ト此ノ工具トハ勤勞ニ對シテ各如

何ナル関係ヲ有スルモノナリヤ

生、本材ハ勤勞ヲ加フハモノ工具ハ勤勞ヲ助ケルモノ

ナリ

教、木工ノ勤勞ヲ加フハキモノハ何ナリヤ 級決教可

生、本材ナリ

教、木工ノ勤勞ヲ助ケベキモノハ何ナリヤ

生、工具ナリ 級決教可

教、木工ノ勤勞ヲ保持スルニ缺カ可カラザルモノハ何

ナリヤ

生、衣食住ナリ 級決教可

教、右三者ヲ極上ニ畫ヤヨ

生、木工ノ勤勞ヲ加フハキモノハ本材ナリ

木工ノ勤勞ヲ助ケベキモノハ工具ナリ

木工ノ勤勞ヲ保持スルニ缺カベカラザルモノハ衣

食住ナリ

教、工人ノ事ハ暫ク此ニ止メ他ノ業ニ従事スルモノニ

就テ以上ノ道理ヲ應用セン向テ農夫ノ勤勞ヲ加フ

ハキモノハ何ナリヤ



生、種子、糞、土ナリ

級決 教可

教、農夫ノ勤勞ヲ助クベキモノハ何ナリヤ

生、鋤、鍛、等ナリ

級決 教可

教、農夫ノ勤勞ヲ保持スルニ缺カベカラザルモノハ何ナリヤ

生、衣食住ナリ

級決 教可

教、商人ノ勤勞ヲ加フベキモノハ何ナリヤ

生、貨物ナリ

級決 教可

教、商人ノ勤勞ヲ助クベキモノハ何ナリヤ

生、舟、車、等ナリ

級決 教可

教、商人ノ勤勞ヲ保持スルニ缺カベカラザルモノハ何ナリヤ

生、衣食住ナリ

級決 教可

教、以上問答ニタルガ如ク凡ソ何ノ業ニ論テノ答此ノ

如キ三ノ區別アリ汝等年之ヲ諸種ノ業ニ應用セハ

必クニ發明スル所アルニ故ニ此ノ三者(勤勞)ヲ

加フベキモノ、勤勞ヲ助クベキモノ、勤勞ヲ保持スル

ニ缺カベカラザルモノハ何ノ業ヲナスヲ向ハズ実

ニ必要ノモノナリトス

生、諾

教、此ノ三者ヲ何ト稱スルヤ

生、財本ト稱ス知リカシバ教ナリ

教、財本トハ如何ナルモノヲ云フヤ

生、右三者ヲ以テ答フ

教、財本ノ定義ヲ書セヨ

生、教上ノ木工ノ事ニ就テ記載シタル文面ヲ修正ス

ハ可ナリ  
教之ヲ修正セヨ

級次 教可

年、題目、如ク修正ス

級次 教可

右終テ講読セシムルコト之ヲ一順ニ次テ卒業セシム

### 唱歌課

#### 第一緒言

唱歌ノ小學教課中ニ於テ一ノ緊要位置ヲ占ムルハ、方今  
 教育家ノ一般ニ認識スル所ニヒテ今復喋々ヲ要セズ雖  
 然レドモ吾邦ニ在テハ其開設日尙尠ク歌曲樂譜ノ果シ  
 テ審我が小學生徒ニ授クルニ適スルヤ否ヤ未得テ断言  
 スルカラザルモノアリ抑今日採用スル教授ノ秩序方亦  
 ハ廣ク外國ニ行ハルモノニシテ原則ヲバズタロビ  
 ノ教授主義ニ取ヒリ蓋シ敢テ問然スルキ所ナキニ似タ  
 リ

此ノ課ハ近年ノ新設ニ係シルコト實ニ前陳ノ如ク余儕  
 ノ未嘗テ実験ニ富マサル所ニシテ遽ニ其ノ是非得失ヲ  
 論スルハ速了ノ断行タルヲ免ヘズ故ニ今東京師範學校

附屬小學校ニ在テ實施スル所ノ方法一二ヲ示シ以テ僅ニ教育家ノ參考ニ供スルノミ

一同校ニ在テハ全校生徒ヲ分テテニ隊トシ各次一隊生ヲ講堂ニ會シ日日之ヲ教授ス

注意蓋現時尙唱歌教員ニ乏キヲ以テ教級ノ生徒ヲ合同教授スルト雖此ノ如キハ固ヨリ一時ノ急ヲ際シニ過ギス他ヨ良教員ニ乏シカラザルノ期ニ達スルニ及ビテハ之ヲ各教場ニ分別シテ以テ教授シ時ニ或ハコレヲ一講堂ニ會シ合同唱和シテ練習ノ熟否ヲ比較セシムルハ莫ク最良法ニシテ又亦來ノ目的ナリトス

二、象生徒講堂ニ入テ看席スルハ樂器ヲ用キテ號令ヲ傳ベ以テ立礼マシム授業ヲ終ルノ時モ亦然リ

三、生徒ノ講堂ヲ出入スルトキハ毎ニ樂器ヲ鳴ラシテ行

歩ノ緩急ヲ調フ

四、唱歌戡圖ト黒板トヲ併用シテ樂譜及歌曲ヲ教授練習シ又或ハ聽音法ニ據テ音ノ高低ヲ判定スルニ慣レシム而シテ樂器ハ多ク風琴ヲ用フ

### 第二教師ノ注意

(一) 此ノ課ハ近來ノ新説ニ屬シ且爪印從来音楽ヲ輕視スルノ餘習アルガ故ニ生徒ノ情動スルハ之ヲ蔽如シ或ハ之ヲ厭惡スルノ偏向アリ教師タルモノ殊ニ此ニ注意ニ自務テ此ノ課ヲ尊重シ而シテ一意生徒ヲ勸奨スルノ方便ヲ講究マザル可カラズ

(二) 教級ヲ合同教授スルトキハ自席ヲ接スルノ小教生徒ニ厚ク而シテ席ヲ隔ルノ多教生徒ニ至テハ其ノ練習ヲ怠ルノ弊アルハ蓋弊ノ危シ難キ所ナシハ毎ニ各生

徒ノ音声ニ注意シテ其ノ高低鋭鈍及発声ノ巧拙ヲ知  
リシ適當ニシテ矯正スルヲ必要ノ務トス

三 新ニ一歌曲ヲ教フルトキハ先其ノ歌ノ意味ヲ講説向  
答シテ之カ觀念ヲ得ルニ命ジテ後之ヲ唱ルニムル

ニ觀念アルノ歌ヲ唱ルニムルト觀念ナキノ歌ヲ謳ハ  
ルハトハ生徒ノ徳性上ニ影響ヲ及ボスニ於テ大差  
異アルモノナレバナリ

四 此ノ課モ亦他ノ諸課ト同じク一歩一歩ニ進ムル節ト  
シ決シテ軽忽ニ経過スルカラス夫ノ生徒ノ意ニ諒リ  
徒ニ歌曲ヲ授クルヲカウニ「ヲ務ムルカ如キハ教育  
家ノ取ラザル所ナリ」

五 新入生徒アルトキハ別ニ一課ヲ設ケテ之ヲ教授シ漸  
ク熟スルニ至ラ他ノ諸級ト合同教授スルヲ要ス

### 教授法一例

教 余ハ今日汝等ニ娛ムベキ一課ヲ授ケントス能ク静

坐シテ余ノ向フ所ニ答ヘ且余ガ望ム所ノ事ヲ為セ

教 却説汝等嘗テ鳥ノ囀ツルヲ聞キシヤ

生 雀ノ囀ツルヲ聞ケリ 級次 教可

教 更ニ善ク囀ツル鳥アリ之ヲ知シリヤ

生 鶯ノ囀ツルヲ聞ケリ 級次 教可

教 然リ誰カ鶯ノ囀ツル如ク謳ヒ得ルヤ

生 五六名挙手

教 一生之ヲ試シヨ

生 一ホ一ホケキヨリト鳴ケリ 級次 教可

教 誠ニ善ク實ハ鳥委中最善ク囀ツルモノナリ此ノ他

鳥委ニハ美声ヲ發スルモノ委禱アリ

教、汝等爲ノ声ヲ聴クトキハ如何ニ感<sub>レ</sub>得<sub>ル</sub>ヤ

生、快ク感スルナリ 級次 教可

教、汝等ハ謳<sub>フ</sub>コトヲ好マガルヤ

生、甚ダ之ヲ好メリ

教、余ハ今汝等ト共ニ歌ヲ詠<sub>フ</sub>トテ學<sub>ハ</sub>ントス歌ヲ

唱<sub>ル</sub>ルハ極<sub>テ</sub>緊要ニシテ且有益ノ科業ナレバ汝等

破<sub>レ</sub>ニ注意シテ之ヲ學<sub>ハ</sub>ガル可カラズ

教、今余ガ何ヲ爲スカヲ注視セヨ(音階ガ)モノヲ思

板<sub>上</sub>ニ登<sub>ル</sub>ニ余ハ今如何ナルモノヲ登<sub>ル</sub>ニヤ

生、階梯ノ如キモノヲ寫<sub>ス</sub>マシ 級次 教可

教、然リ是レ階梯ナリ唱歌ヲ學<sub>ブ</sub>ニ必要ナル<sub>ル</sub>ニシテ

之ヲ音階ト謂<sub>フ</sub>汝等音階ノ文字ヲ知<sub>ル</sub>リヤ

生、知<sub>ラ</sub>ズ 書板 各唱 齊唱

教、然<sub>ラ</sub>ハ余之ヲ書<sub>ク</sub>マシ

生、音階ニ於テ如何ナルモノヲ長<sub>ル</sub>ヤ

生、數個ノ横線ヲ長<sub>ル</sub> 級次 教可

教、然<sub>リ</sub>是等ノ横線ハ何ヲ表出スルモノナリヤ

生、階ノ段ヲ示<sub>ス</sub>マシ 級次 教可

教、余ハ今此ノ音階ノ段ニ名ヲ命<sub>ズ</sub>ク(音階ノ第一段

即最下ノ横線ノ兩端ニ一ヲ附<sub>ス</sub>第二段ノ兩端ニ二

ヲ附<sub>ス</sub>第三段ノ兩端ニ三ヲ附<sub>ス</sub>)如何ナルモノヲ書

マシヤ

(注意)音階及數字ノ書<sub>ク</sub>方等ハ唱歌構<sub>成</sub>及小學唱歌集

第一篇等ニ詳<sub>カ</sub>ナリ就<sub>テ</sub>參<sub>照</sub>ス

生、數字ヲ記<sub>ス</sub>マシ 級次 教可

教、如何ナル段ニ一ヲ附<sub>ス</sub>リヤ

生、第一段而最下ノ横線ニ一ツ附マリ 級決 教可

教、二、如何

生、第二段ニ附マリ 級決 教可

教、三、如何

生、第三段ナリ 級決 教可

教、然リ余ハ今帝階ノ段ニ各ヲ余ダリ余汝等ト共ニ之

ニ據テ試ニ歌ヲ唱フゾシ

教、余輩此ニ一、二、三、ヲイテニサント呼バズンテ一、ヲハ

一、ニ、ヲフーニ、ヲミート呼バントス誰カ之ヲ讀ミ得

ルア 級決 教可

生、ヒー、フー、ミー 各唱

教、善シ然レドモ汝等今ハ唯之ヲ讀ミタルノミ之ヲ証

生、黙ス

教、然ラハ之ヲ學ブゾシ此ノ一、ハ最モ低キ段ニシテ聲

モ亦最低ク發スゾクニ、ハ第二段ナレバ一、ヨリ一層

高ク三、ハ第三段ニシテニ、ヨリ一層高ク声ヲ發スゾ

キヲ示マリ今衆器ヲ以テ之ヲ彈ズン

教、今往ク余ノ彈ズル所ヲ聽キ成可的之ト同一ノ音ヲ

發センコトヲ試ミルゾシ 樂器ヲ以テヒ一ヲ彈ズ

生、一、生、フー 級決 教可

教、然リ是レ則第一段最低キ音ナリ再ハ余ガ彈ズル所

ヲ聞ケテフーヲ彈ズ之ト同一ノ音ヲ發テ試ミヨ

生、一、生、フー 級決 教可

教、甚善シ再ハ彈ズル所ヲ聽ケテフーヲ彈ズ

生、一、生、フー 級決 教可

教、余が謡フ所ヲ聴キ汝等之ヲ倣ヒテ一齊ニ歌フコト

(音階ヲ指シテミ、ソ、ラ、シ、トト唱フ)

生、ミ、ソ、ラ、シ、ト

(注意) 教回及覆スバシ

教、(音階ノ左例ノ一、ニヲ指シ横線ニ沿フテ右例ノ一、

ニ下リ之ヲ指シ傍ラ、ミ、ソ、ラ、シ、トト唱フ) 汝等

之ニ倣フ

生、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト

教、(音階ヲ指示シ傍ラ、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、トト唱フ)

ソ

生、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト

教、甚善シ誰カ来リ教師ニ代テ先唱ヘ他ノ生徒ヲシテ

之ニ倣ハシムコト

生、一生擧手(衆ヲ音階ヲ指シ、ミ、ソ、ラ、シ、トト唱フ)

齊唱

教、善シ他生來テ之ニ代シ

生、一生来テ音階ヲ指シテ及覆ス

教、余ハ今衆器ヲ用キテ之ヲ彈スルコト汝等之ニ倣フ

生、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト

生、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト

(注意) 一、二、三、三、二、一、亦之ニ倣フ

教、余ハ今衆器ヲ用キテ、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ミ、ソ、ラ、シ、ト、ノ中其ノ一ヲ彈

ズルコト汝等肅聴シテ其ノ何音タハラ判決ヤニコト

ヲ務メヨ

(注意) 是レ即聴音法ノ第一歩ニシテ實ニ有益ノ練習

トス故ニ日後猶時々斯ノ如ク練習スルヲ要ス且其

ノ者ノ何タルヲ理解シタル生徒ノ如キハ之ヲシテ  
来ラ帝階ヲ指示マシムベシ  
教、余ハ此ニ今日ノ課ヲ終ラントス汝等能ク其ノ學ビ  
タル諸項ヲ記憶シ次日以此ノ課ヲ修ムルニ及テ正ク  
之ヲ反覆スベシ

體操課

第一 緒言

夫レ身體精神二者ノ其ノ使用練磨スルニ從テ益強壯銳  
敏ヲ致スハ吾人ノ常ヲ疑フ容シガル所ニシテ此ノ二者  
ハ共ニ密接ノ關係ヲ有シ其ノ發育ノ度ニシテ苟ク權衡  
ヲ失スルカレハ則完全ノ人トラシムルヲ得ズ故ニ精神  
ヲ練磨スルト同時ニ身體ヲ使用スルハ其ノ權衡ヲ保持  
スルニ於テ最緊要務タリ方今小學ニ體操課ヲ設ル蓋亦  
是ニ由ルニ其熟小學ノ業ヲ考フルニ修業ノ歲月マハ早  
ク久シニ亘リ學課ノ種目ト有餘ノ多キニ涉リ而シテ日々  
學修スル所ノ課目三五種ニ至ル鳴呼児童活潑ノ精神ニ  
便ニシテ鼓舞スルノ道トシテ高ク能ク其ノ科業ヲ究ム  
其ノ目的ヲ達スルヲ得ンヤ抑體操ハ身體強壯ノ度



ラシテ何等ノ為ニ違ハシムルハ月目的ヲスルキナキナ年輩ノ長  
ハ所ヲ以テスルハ兒童天稟ノ健康ヲ保持シ進テ業ヲ執  
ルニ堪ルノキノ強壯ヲ養成スルヲ以テ足レリトスルカ  
如シ船車ノ精神ノ鬱塞シタル時及其實業ニ就カントスル  
ノ前等ニ於テ時ニ身軀四肢ヲ運動シテ以テ業ヲ執ルノ  
根源ヲ養ハル體操ノ目的ヲ達シ得タリト謂フベシ  
體操ヲ課スルニ多時ヲ要マサル所以ノモノハ蓋シ是ニ由ル  
カ  
體操ノ技種々アリ而シテ現今專ラ我知ニ採用スル所ハ  
ノモノヲ徒ニ運動器械運動トス此等ノ技ハ四肢ノ運動  
ヲ整理シ身体諸部ノ發育ヲ調度スルニ最可ナリ聞ク所  
ニ據ルハ歐洲ノ如キ或ハ兵兵練操ヲ以テ小學校ニ加フ  
ルノ知國アリト蓋シ其法區シキヲ得ハ獨ク小學體操ノ

目的ヲ達シ得ルキノミナラズ保ヤテ歩兵操練ノ目的ヲ  
達シ得ルヲ實ニ一舉兩全ノ得果ト謂フベシ抑體操ノ  
課タル之ヲ要スルニ必シモ其直板ノ種美ヲ以テ之カ得  
夫ヲ較ブハカラ不唯其果メ兒童ノ体力ニ適スルマ否ヤ  
ラ操ニ間接ノ利用如何ヲ測ルベキノミ茲ニ體操術ヲ教  
授スルニ於テ注意スルキ條件一ニラホサントス其ノ徒  
子器械兩運動法ノ如キハ既ニ文部省所轄體操練習所ノ  
刊行ニ係ルル書アリ就テ見ズニ  
一 視令ハ嚴ニシテ敏ナルヲ要ス  
一 演板ハ秩序ヲ正フシ運動ヲ整フルヲ要ス  
一 運動スルニハ充分ノ力ヲ用サルベシ  
一 運動中ハ次ニテ柔弱ノ風アルベカラズ  
一 運動中ハ嚴ニ發言ヲ禁ズベシ

一 運動中ハ初織其ノ他運動ヲ行フニ妨アルモノヲ脈ス  
ル

一 運動ヲ整正スルニカ爲ニ樂器或ハ一二三等ノ号令ヲ以  
テ其ノ緩急ノ節ヲ調フベシ

一 演技ハ時ニ変換スルヲ要ス

一 歩行スルニハ必歩ヲ整フベシ

歩ヲ整フルニハ樂器或ハ丸石ノ號令ヲ用ルヲ可  
トス

一 衣服ヲ整フベシ

一 體格ヲ正フスベシ

頭部ヲ直ニシ胸廓ヲ張ルノ類

一 生徒演技ニ熟スルトキハ其ノ優等ナルモノヲ択ミテ

教師ニ代テ司令者ヲランノ教師傍ラニ在リテコレヲ

監督スル

改正教授術続編卷之二

若林虎三郎

編纂

白井

教

試業添

試業ハ生徒ラニテ當テ教ヲ受ル所ノ學業ヲ實試セシムル方便中ノ一タリ凡ソ教授ノ術ハ第一着ニ果事物ラ生徒ニ示シ或ハ之ヲ談話スルノ第一着ニ生徒ラニテ自之ヲ實試セシムルキモノトス

教授シタル事物ノ種美ニ從テ或ハ唯生徒ヲメ之ヲ又覆セシメ其ノ註シ之ヲ記帳セルマ否ヤヲ授スルヲ以テ是ヒリトスベキモノアリト是然ヒドモ其推理カラ要スルノ事項ニ至テハ生徒ノ真ニ其理ヲ會得セルマ否ヤヲ證明スルノ事無カルベカラズ則チ之ヲ證明セント欲セハ

生徒唯其ノ教ヲ受ルル所ノ推理的言辭ヲ反覆スルニ止  
ルカ將往々其ノ關係スル所ヲ理解スルカラ判別スルニ  
足ルベキノ按定ヲ施サハハカラズ

前段ハ即ヤイニ此カ彼ノ布各ノ教育書中一般ノ試業ニ  
就テ陳辨シタル論說ノ一部ニシテ之ヲ熟読スルニ其ノ  
趣味感ナリ試業者ノ為ニ主要ノ目的ヲ與フルモノト謂  
フベキナリ

試ニ現時ニ行ハル所ノ試業方法ヲ根ルニ生徒ラニ  
テ往々其書ヲ教ヲ受ル所ノ事業ヲ実試ヤコルルニ足ラ  
ズ多クハ單ニ文字ヲ暗誦スルヤ否ヤヲ試査スルニ止マ  
リ而シテ其ノ觀念ノ有無如何ハ如キハ幾ド之ヲ不問ニ  
措クモノト如ク殊ニ推理カラ要スルノ事項例ハハ数学  
ノ如ク最推理カラ要スルノ学科ニ至テハ徒ニ其ノ法則

定義ヲ誦誦セシメ其ノ例題ノ如キモ亦唯器械的方法ヲ  
以テ為シ得ベキモノ、ミヲ用テテ以テ足レリトスルモ  
ノアルカ如シ豈大ニ試業ノ目的ヲ誤レルモノト言ハサ  
ルマケニア

抑試業ノ事タル教育ニ從事スルモノノ一大緊要責任ニ  
シテ其ノ法ノ適否ハ非常ノ影響ヲ教育上ニ及ボスモノ  
ナリトス則チ若シ能ク之ヲ利用スル片ハ以テ生徒ノ有  
スル學力ヲ實際ニ從テ生徒平生ノ勉勵ヲ促シ且各學課  
上子生應ニ注意スルべき要點ヲ知ラシムルニ足ル事也  
効益擧ゲテ言フベカラズト雖苟モ其ノ法宜ク得ハハハ  
ハ生徒ハ單ニ試業ヲ以テ一大事トナシ而シテ平素勉勵  
スルモノ學術ヲ習練スルカ為ニヤ不コラ及テ試業ノ準  
備ヲ整フルカ為ニスルノ偏向ヲ生ジ即試業ノ期ニ近

スルヲ免レズ口答試業法ヲ用ケル其ノ不利ニナリ而シテ此ノ法ニ依ルトキハ受験者ノ試問ニ答ルハ精細之ヲ思考スルノ餘向アルコトナク故ニ往々真ノ學カラズニ違アラザルモノアリ口答試業法ヲ用ケル其ノ不利ニナリ

筆答試業ハ之ヲ通常學校生徒ノ學カラ換定スルニ於テ便益ヲ與フルモノ種々アリ曰ク各受験者ニ與フルニ同一問題ヲ以テスベキカ故ニ試問上不公平ヲ受スノ弊アルコトナク筆答試業法ノ理一ナリ曰ク試業者度々暗示若クハ誘言ヲ用ケルコトナク受験者ノ能クスル所ニ任スルヲ得ベシ筆答試業法ノ利ニナリ曰ク問題ヲ作爲スルニ於テ精細之ヲ練ルノ餘向アリ筆答試業法ノ利ニナリ曰ク受験者ノ應答速ク其意ヲ得タルハ速マク考定

理ハ利ナリ

見ハ疾ク誤リ

スルニ於テ亦充分ノ餘向アリ筆答試業法ノ利四ナリ曰ク試業者ハ應問ノ當否如何ヲ精密ニ點見シ以テ正當公平ニ之ヲ判決スルヲ得ベシ筆答試業法ノ利五ナリ亦筆答試業ノ失トスル所アリ管理上ニ困難ヲ感ズルハ是レナリ即管督其ノ法ヲ得ガルトキハ生徒互ニ他ノ答詞ヲ相窺ヒ或ハ謗ニ備忘録ヲ携帶スル等ノ弊ヲ生じ易キモノ之ヲ其ノ一トシ又書籍若シハ書取本ノ文章ヲ剽竊竊出スルニ容易ナルノ偏向アルモノ之ヲ其ニトス然レドモ此等ノ弊ハ固ヨリ甚致正ニ難キニ非カレハ要スルニ筆答試業ハ之ヲ施スニ於テ口答試業ニ優レルコト萬々ナリトス

筆答試業ノ其ノ利大ニシテ而シテ其ノ害ノ小ナル固ヨリ分明ナリトモ然レドモ元來此ノ法タル生徒ノ文學幾

介ノ進歩ヲ為セルヨリ以後ニ非レハ得テ莫クシ難キ所  
 ナレバ小学下級生徒ノ試業法ニ至テハ及ク口答試験ヲ  
 用カサルヲ得ズ且講方課ノ如クハ句讀講義ヲ主トスル  
 モノナレハ其級ノ高下ニ論ナク概口答法ニ依ラザルハ  
 カラス

口答試業法ニ二種アリ甲ハ順次一人ヲ一室ニ呼出し各  
 生ニ試問スルニ同一ノ問題ヲ以ラスルモノトシ乙ハ全  
 級生徒ヲ一室ニ會シ各生ニ試問スルニ異種ノ問題ヲ以  
 テスルモノトス而シテ甲種ハ頗ル良法ニシテ以テ真ノ  
 學力ヲ検定スルニ足レリト雖大ニ時間ヲ消費シ又其ノ  
 一生徒ヲ試問スルノ際他ノ生徒ハ皆應ニ為スベキノ業  
 ナリ因テ空ノ遊戯ヲナス等耳ノ他管理上ニ不利ヲ生ズ  
 ルヲ蓋シサレトセス

乙種ハ各生徒ニ與ケル所ノ問題ヲ異ニセザルベカラザ  
 ルノ失アリト雖然レ之ヲ甲種ニ比スルニ其ノ時間ヲ  
 省減シ又一生徒試業ヲ更スルノ際他ノ生徒モ亦答コシ  
 ラ聞クヲ得テ多少利益ヲ蒙リ其ノ他管理上毫無混雜  
 ラ来スノ患アルトナシ且ツ其ノ問題ヲ各別ニスルノ失  
 ニ至テハ教師タルモノ此ニ注意セハ得テ其ノ難易ノ大  
 差ナキモノヲ撰擇スルヲ得ベシ縱トモ少ノ難易アルモ  
 元是レ一々心教師マシ所ニ屬シ大抵難易ノ差ナキモノ  
 ト着做スルヲ得可カラザルニ非レバ故ニ通常諸學校  
 ニ於テ月次試業及學期試業ヲ行フニハ蓋シレ法ヲ用リ  
 ルヲ善シトス但其受取者少數ニシテ而シテ最緊要ニ屬  
 スルノ試業即全科卒業或ハ入校試業等ヲ行フニハ甲法  
 ヲ用ルハ適當トス

各科試業ノ心得

(一) 修身 修身科試業ハ格言ト事實トヲ共ニ檢定スルキモノトス

(二) 格言ハ之ヲ黒及ニ列記シ一生ヲイテ之ヲ誦マシメ他生ヲレテ之ヲ講マシメ又或ハ其例ヲ舉ゲシム而シテ各別ノ回答ニ懸ノコトムルコト

注意 若シ生徒ノ學步漸ク進ミタルトキハ之ヲ筆答マシムルコト

事實ハ其一例語ヲ幾箇落シ區分シ以テ順次一箇落ラ説活マシムルコト例ハ甲生ニ向テ果務言ニ就キテ如何ナル例語ヲ聞ガシヤラ問ハハヒ生ラシテ最首ノ一箇落ヲ語ラシメ丙生ラシテ第二箇落ヲ説活マシムルカ如シ

注意 前ニ同シ

附説 修身課ハ本来知識ト實踐トヲ要スルモノナルガ上陳ノ試業ノ單ニ是レ修身上ノ知識ヲ檢定スルモノナラバ其ノ應答ノ正否ニ從テ點數ヲ加減スルコト他ノ學科ニ於ケルガ如クスルモノハ修獨身上知識ノ成績ヲ表ヤシタルニ過ギ不致ニ其ノ實踐如何ニ至テハ尤式ノニ表ヲ製シ平素各生徒ノ品行ヲ觀察シテ精細登記シテ其ノ知識ト實踐トヲ對比斟酌シ以テ及第落第ヲ決シ又賞與スルキマ否ヤラ判スルヲ善シトス

第一表式

小學何等科第何年何期生 自明治何年何月何日 戒飭表

其ノ難キモノ 更業用具ヲ 遺忘ス	其ノ重キモノ	理由	月日	姓名
教室内ニ 是ヲ弄ス	教師ノ命ニ 違背ス	降校ノ途上同 級生果ヲ妨害ス 放課時間同級生 ヲ害ス	何月何日 何月何日 何月何日 何月何日 何月何日	甲 栗 乙 栗 丙 栗 丁 栗 戊 栗 己 栗
行進中談話シ 或ハ他ヲ觀ル				
登校時間ニ 後入				

此ノ表ニハ可成的精密ニ其理由ヲ登記シ月次試業毎ニ其輕重ヲ斟酌シテ回数ヲ調査シ學期試業ニハ戒飭  
度數ノ一項ヲ設ケ一學期間戒飭ヲ受ケタルノ回数ヲ  
掲載スルモノトス

第二表此

小學何等科第何年何期生性實呂評表

溫良ニシテ 温良ニシテ 温良ニシテ	端正ニシテ 端正ニシテ 端正ニシテ	活潑ニシテ 活潑ニシテ 活潑ニシテ	敏捷ニシテ 敏捷ニシテ 敏捷ニシテ	沈靜ニシテ 沈靜ニシテ 沈靜ニシテ	執物時ニ 執物時ニ 執物時ニ	朴直ニシテ 朴直ニシテ 朴直ニシテ	柔和ニシテ 柔和ニシテ 柔和ニシテ	柔銳ニシテ 柔銳ニシテ 柔銳ニシテ	粗暴ニシテ 粗暴ニシテ 粗暴ニシテ	遲鈍ニシテ 遲鈍ニシテ 遲鈍ニシテ
強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健	強健 強健 強健
家 家 家	家 家 家	家 家 家	家 家 家	家 家 家	家 家 家	家 家 家	家 家 家	家 家 家	家 家 家	家 家 家
十 十 十	十 十 十	十 十 十	十 十 十	十 十 十	十 十 十	十 十 十	十 十 十	十 十 十	十 十 十	十 十 十
何 何 何	何 何 何	何 何 何	何 何 何	何 何 何	何 何 何	何 何 何	何 何 何	何 何 何	何 何 何	何 何 何

此ノ表ハ平日觀察スル所ノ成績ヲ登記スルモノニシテ一學期間一回若クハ二回調査スルモノトス而シテ唯



是レ教員ノ参考ニ供スベキモノナリシテ生徒及長ノ父兄ニハ史シテ之ヲ示サバハラ善シトス

二) 読方 一月或ハ一學期間教授セハル部分ニ就テ三四行若クハ六七行ヲ定限シ全級生徒ニ分課シテ各庄各別ノ處ヲ読講セシム

生徒ノ學力已ニ能ク之ヲ筆答ニ得ベキニ及デハ筆答試業法ニ依リ讀込中ニ就テ一文章ヲ撰擇シテ其句讀及意味ヲ筆記マシムルノ法ヲ限用スルモ可ナリ又時アリテ亦教師自讀本中ノ一部ヲ讀ミ之ヲ筆記セシムルコト

三) 作文 初等科下級生徒ニハ課題ヲ與ヘテ其ノ大意ヲ問答シ之ヲ綴ラシム又填字法イニ此ニ生徒ラシテ其ノ文字ヲ正誤法ニ依リて之ヲ正初等科下級生徒ニハ課題ヲ與ヘテ其ノ大意ヲ問答シ之ヲ綴ラシム又填字法イニ此ニ生徒ラシテ其ノ文字ヲ正誤法ニ依リて之ヲ正

サレラモ用ナラヲ可トス

生徒ノ學力漸ク進ムルニ及デハ課題ヲ與ヘテ各自ノ思想ヲ述ビシム

書讀文ハ殊ニ實用ヲ主トスルモノナリハ公用文ヲ試驗スルニハ之ニ干切紙及封筒ヲ與ヘ又公用文ヲ試驗スルニハ羅紙等ヲ與ヘ現時社會ニ行ハル所ノ式成ニ依テ之ヲ記載マシムルヲ要ス

四) 習字 既ニ學ビタル文字中共ニ試業ニ便利ナル文字ヲ撰取シテ以テ書マシム或ハ習字帖ノ範字ヲ書ヤシムルモ可ナリ

五) 算術 算術ハ用語ノ定義諸法則練習諸問題等皆以テ試業ノ科ニ供スベキモノトス

此ノ科ハ諸字課中最精密ナルモノニシテ其ノ答式ノ

是取ヲ判決スルガ如キ甚ク易ク從テ其ノ得病ヲ精確

ニ算計シ得シキモノトス然レモ此ノ課メハ勸メスシ  
ハ徒ニ法則ヲ認識シ器械的運用ニ流レ易キノ傾向カ  
ルモノナレバ教師タルモノ深ク此ノ點ニ注意シ昂向  
題ヲ設ケルニハ務テ其推理力ヲ鍛磨スルニ足ルベキ  
モノヲ擇定スルヲ要ス

(六) 地理 地理ノ試業問題ヲ分テ二種トス即地図ニ關  
スル問題及地誌ニ關スル問題是レナリ  
其ノ地圖ニ關スル問題トハ例ハ何府ヲ築ク何府ニ至  
ルノ途次何ノ節是ヲ經ルヤ或ハ何ノ山脉ヲ踰スルヤ  
或ハ何河ヲ渡ルヤ等又何港ヲ築ク何港ニ連スルノ航  
路何ノ岬角嶋岬ヲ經ルヤ等或ハ何地ノ地図ヲ示セト  
スルノ類ノ如シ

地誌ニ關スル問題ハ即地誌中ノ事項ヲ選擇シテ之ニ  
充ツルモノトス然レモ其ノ條下ニ登載スル一段落ノ  
文章ヲ抄出シテ以テ答トヤスニ足ルベキノ事項ヲ採  
テ問題ニ充ルカ如キハ務テ之ヲ避ケ而シテ生徒ノ興  
ニ且ノ觀念ヲ有スルヤ否マラ檢スルニ足ルベキモノ  
ヲ擇マンテ之ヲ要ス

地文學ニ至テハ殊ニ日常觀察スル所ノ現象ニ通用シ  
タル問題ヲ用サテ生徒ノ觀察力及推現力ヲ鍛磨スベ  
シ

(七) 歴史 歴史課ノ小學ニ於ケル元來史學ノ豫習ニ充ツ  
ルベキ事實ヲ談話スルニ過ギカレバコレヲ彙類概括ス  
ル等ノコトハ史ニ於テ此ニ望ム可カラズ故ニ唯其ノ實  
ヲ談話スル事實上ノ智識文字ニヲ有スルマイナマラ復

スルニ足ルマキ問題ヲ撰定スルヲ務ムマキノミ

(八) 圖畫 圖畫ノ試業ハ其ノ紙質ノ良否ニ從テ大ニ成績ニ差異ヲ生スルモノナリハ全生徒同格一ノ紙ヲ與ヘテ描畫セシムルヲ善シトス

高專科ニ至テ繪畫ヲ試業スルモ必シモ一時間ヲ以テ全シ之ヲ畫キ成スコト能ハズ故ニ縦ト其ノ畫未ダ成功ニ至ラサルモ假ニ徵集領置シ次ノ課業時間ニ及テ再之ヲ分付シ以テ其ノ成功セシムルヲ要ス

試業ノ科ハ生徒ノ力ニ應ジ可成の實物ヲ模寫セシムルニ足ル  
(九) 博物物理化學生理 此等ハ奇實驗的學科ニシテ其ノ目的トスル所固ヨリ文字上ニ述ぶ故ニ問題ハ觀念ノ有無或ハ其ノ真理ヲ會得スルヤ否ヤヲ檢スルニ足ル

ズキモノヲ撰定スルヲ要ス

時アリテ其ノ未直接ニ教授セザル事物ヲ取テ問題ト爲シ生徒ヲシテ其ノ既ニ學ビタル所ノ主意ヲ適用シテ以テ之ヲ解叙セシムルハ益ニ無ク有益ノ練習ナリトス

(十) 幾何 幾何モ亦心カノ練習ヲ目的トスル學科ナシハ其ノ既ニ學習シタル所ノモノヲ比較抽象セシメ或ハ算數セシムルノ目的ヲ以テ問題ヲ設ケ或ハ日用器物ヲ示シ幾何學ノ法則ニ憑ヒテ之ヲ證明セシムル等常ニ教授シタル所ノ事項ヲ活用セシムル足ルマキモノヲ撰定セシムルヲ務メザルベカラズ

(十一) 經濟 小學科ニ經濟課ヲ置ク所以ノモノハ畢竟其ノ聖諭ヲ單一ニシ且最實用ト適セシムルヲ必要トスル

之ノナシハ可成的其ノ都邑村落ニ行ハルノ經濟ニ適

用マルモノヲ權テ向歌トナスヲ善シトス

(五)唱歌 唱歌ハ口答及筆答試業ヲ依テ用キルヲ得バノ

而シテ其ノ口答試業ハ解明若シクハ歌曲ヲ唱ヘシム

ハニ在リ

蓋以テ口答試業法ヲ用キルモハ教師來講ヲ撰ニ各

生ラシテ順次同一ノ講ヲ誦スルモ其ノ正否ヲ按シ

テ優劣ヲ判ス

筆答試業法ニ依ルモハ尙階講表音符休止符抑子等ニ

就テ單一ノ向題ヲ作り或ハ文字ヲ以テ其曲ヲ解明シ

生徒ラシテ之ヲ衆講ニ更改セシムル等凡テ唱歌ニ關

スル習儀ヲ檢定スルヲ要ス

蓋聽音法ヲ試驗スルニハ教師自ラ衆器ニ依テ一統

音ヲ奏シ生徒ラシテ其音ヲ筆記マシム

(六)体操 体操ハ十人或ハ十五人ヲ一隊トシ毎隊各別ニ

技ヲ演マシメ以テ其ノ正否ヲ按シ優劣ヲ判スルモノ

トス

點數ヲ計算スル法

試業ノ成績ヲ算定スル方法種種アリ故ニ敢テ一概ニ論

定ムルヲ得マカラズト雖然ト其ノ最便利ニシテ而シ

テ廣ク世界ニ採用セラレモハ各學科ノ點數ヲ一而

トシ各向題ノ難易繁簡ニ從テ適當ニ以テ點數ヲ分數ス

ルノ法ナリトシ今東京師範學校附屬小學校ニ在テハ月

次試業ニハ各學科ノ定點ヲ一而トシ學期試業ニハ之ヲ

一而五十ト為ヤリ乃同校ガ試業點數ヲ計算スルノ法ヲ

器示シテ以テ希希ノ參考ニ供ストス

學期試業



、度教ニ一箇有年ヲ加ノタハスノヲ以テテラ除ク學  
 期成績ノ評点トス

學期別成績評點表式

學期	國語	算術	總計	出席	成績	年齢	姓名
1	100	100	100	100	100	100	100
2	100	100	100	100	100	100	100
3	100	100	100	100	100	100	100
4	100	100	100	100	100	100	100
5	100	100	100	100	100	100	100
6	100	100	100	100	100	100	100
7	100	100	100	100	100	100	100
8	100	100	100	100	100	100	100
9	100	100	100	100	100	100	100
10	100	100	100	100	100	100	100
11	100	100	100	100	100	100	100
12	100	100	100	100	100	100	100
13	100	100	100	100	100	100	100
14	100	100	100	100	100	100	100
15	100	100	100	100	100	100	100
16	100	100	100	100	100	100	100
17	100	100	100	100	100	100	100
18	100	100	100	100	100	100	100
19	100	100	100	100	100	100	100
20	100	100	100	100	100	100	100
21	100	100	100	100	100	100	100
22	100	100	100	100	100	100	100
23	100	100	100	100	100	100	100
24	100	100	100	100	100	100	100
25	100	100	100	100	100	100	100
26	100	100	100	100	100	100	100
27	100	100	100	100	100	100	100
28	100	100	100	100	100	100	100
29	100	100	100	100	100	100	100
30	100	100	100	100	100	100	100
31	100	100	100	100	100	100	100
32	100	100	100	100	100	100	100
33	100	100	100	100	100	100	100
34	100	100	100	100	100	100	100
35	100	100	100	100	100	100	100
36	100	100	100	100	100	100	100
37	100	100	100	100	100	100	100
38	100	100	100	100	100	100	100
39	100	100	100	100	100	100	100
40	100	100	100	100	100	100	100
41	100	100	100	100	100	100	100
42	100	100	100	100	100	100	100
43	100	100	100	100	100	100	100
44	100	100	100	100	100	100	100
45	100	100	100	100	100	100	100
46	100	100	100	100	100	100	100
47	100	100	100	100	100	100	100
48	100	100	100	100	100	100	100
49	100	100	100	100	100	100	100
50	100	100	100	100	100	100	100
51	100	100	100	100	100	100	100
52	100	100	100	100	100	100	100
53	100	100	100	100	100	100	100
54	100	100	100	100	100	100	100
55	100	100	100	100	100	100	100
56	100	100	100	100	100	100	100
57	100	100	100	100	100	100	100
58	100	100	100	100	100	100	100
59	100	100	100	100	100	100	100
60	100	100	100	100	100	100	100
61	100	100	100	100	100	100	100
62	100	100	100	100	100	100	100
63	100	100	100	100	100	100	100
64	100	100	100	100	100	100	100
65	100	100	100	100	100	100	100
66	100	100	100	100	100	100	100
67	100	100	100	100	100	100	100
68	100	100	100	100	100	100	100
69	100	100	100	100	100	100	100
70	100	100	100	100	100	100	100
71	100	100	100	100	100	100	100
72	100	100	100	100	100	100	100
73	100	100	100	100	100	100	100
74	100	100	100	100	100	100	100
75	100	100	100	100	100	100	100
76	100	100	100	100	100	100	100
77	100	100	100	100	100	100	100
78	100	100	100	100	100	100	100
79	100	100	100	100	100	100	100
80	100	100	100	100	100	100	100
81	100	100	100	100	100	100	100
82	100	100	100	100	100	100	100
83	100	100	100	100	100	100	100
84	100	100	100	100	100	100	100
85	100	100	100	100	100	100	100
86	100	100	100	100	100	100	100
87	100	100	100	100	100	100	100
88	100	100	100	100	100	100	100
89	100	100	100	100	100	100	100
90	100	100	100	100	100	100	100
91	100	100	100	100	100	100	100
92	100	100	100	100	100	100	100
93	100	100	100	100	100	100	100
94	100	100	100	100	100	100	100
95	100	100	100	100	100	100	100
96	100	100	100	100	100	100	100
97	100	100	100	100	100	100	100
98	100	100	100	100	100	100	100
99	100	100	100	100	100	100	100
100	100	100	100	100	100	100	100

附言、及第落第ヲ判スルニハ、學業評點ノニニ類ラ  
 スコトヲ生徒年齢ノ多少、体質ノ強弱、品行ノ正否等ヲ參  
 考シ之ガ擔任教員タルモノ、熟議判定スルヲ適當トス

全級總評

授業ノ要旨

師範學校ハ忠孝粹倫ノ道ヲ奉トシテ生徒ヲ教導スベキ  
モノトシバ生徒ヲシテ彼ト異ノ品行ヲ修メ其ノ心カヲ  
研キ夙夜電勉イノ学校員心得ニ掲グル所ノ條款ヲ服膺セ  
シムルコト又師範学校ノ<sup>教</sup>業ハ他日生徒ノ自ラ規章ヲ教  
授スルノ模範タルモノナリハ教師タルモノハ彼ニ  
課業ノ撰択ヲ慎ミ實用ヲ主トシテ高尚ノ理論ニ馳ヤス  
設向教示懇到周密ナランコトヲ希トス可ク生徒ノ應答講  
習亦詳明着實ナランコトヲ要ス而シテ師範學科ノ中他  
日規章ニ授ク可キモノハ唯之ヲ知ラシムルノミナラス  
之ヲ規章ニ傳ヘシムルノ目的ヲ以テ教授スルコト極メテ  
緊要ナリトス

修身 修身ノ道ハ人ノ常ニ遵守スベキモノナリ況ヤ他

人ノ師表ヲラント欲スルモノニ於テオマ<sup>レ</sup>直<sup>レ</sup>ク常ニ

躬行矣<sup>レ</sup>此レテ自家ノ徳性ヲ養成シ以テ他日子弟ヲ感

化スルノ基ヲ立リマシ故ニ各級ニ之ヲ設ク毎朝<sup>ヲ</sup>業

ノトキ第一ニ之ヲ授ケ以テ物ニ接シ事ヲ處スルニ臨

ミ常ニ其ノ教ヲ服膺センムントス之ヲ授クルニハ專

儒教ニ差ヤ聖賢ノ嘉言善行及之ヲ実行スルノ道ヲ講

説シ兼テ礼儀ヲ演習マシメ又時ニ生徒ヲシテ教師ノ

位置ニ立テ小學校ニ於テ授ク可キ修身ノ講義及談話

ヲ付サシム

讀書 知文ハ必知固布ノ文章ナレハ委シク之ヲ修メシ

マシバアルハカウズ之ヲ授クルニハ先ヅ五十音圖<sup>ノ</sup>及

次清音ニ就キテ音韻ノ輕重兩合清濁ヲ知ラシメ次<sup>ニ</sup>体

用語言ノ格ヲ示シ進デ進セ<sup>テ</sup>發聲ノ文章ニ俟リテ言辭

ノ繫結言語ノ自他等ノ諸格ヲ考究セシメ更ニ甲乙ノ

雅文ニ廻リテ主客正副抑揚無<sup>レ</sup>忘<sup>レ</sup>音ノ義ヲ講セシム

漢文ハ各邦往昔ヨリ之ヲ用カ殆ド自國ノ言語文字ノ

如クナリテ亦須要ノ科ナレハ其ノ大要ニ通マシムバ

アルハカラズ之ヲ授クルニ雅馴ノ文体ニ付テ<sup>ハ</sup>辭流<sup>ノ</sup>講

義ニ依リテ文字ノ音訓音韻ノ長短清濁章句ノ<sup>ニ</sup>統<sup>テ</sup>等

ヲ明シシ字義句意ヲ詳ニシ文理文義ヲ考究セシム

作文 作文ハ先ヅ作例ヲ示シテ<sup>ハ</sup>綱<sup>ノ</sup>約<sup>ノ</sup>ノ文ヲ作ラシメ<sup>テ</sup>辨

構文ノ法ヲ悟リテ後中世以後ノ雅馴ノ文体ニ<sup>ハ</sup>假<sup>シ</sup>記

事文ヲ作り漸次書腕文論<sup>ノ</sup>文ニ入ラシメ<sup>テ</sup>漢文ハ<sup>ハ</sup>簡<sup>ノ</sup>約

ノ紀事文ヨリ論說文ニ入ラシムル<sup>ノ</sup>和漢文ヲ<sup>ハ</sup>作<sup>ラ</sup>し

ムルニハ文章簡明<sup>ノ</sup>美<sup>ニ</sup>シテ<sup>ハ</sup>氣力アリ句調暢和<sup>シ</sup>シ

テ例格ニ合スル<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>至<sup>シ</sup>トシ<sup>テ</sup>文題ハ<sup>ハ</sup>務<sup>メ</sup>テ<sup>ハ</sup>實用ニ<sup>ハ</sup>適<sup>ス</sup>



ハニ、ヲ撰テ

算術 算術ハ他日算章ニ于テヲ興フハヲ始メトシ他ノ  
算科教授ノ際ニ於テモ其用殊ニ多キ科ナリハ其ノ練  
習最意ヲ致リヤンバアルマカラズ之ヲ授クハニハ先  
ツ算科執筆ノ法ヲ教ヘ次ニ算ノ運用トテノ結構トニ  
就キテ一般ノ定則ヲ教ヘ然ル後善長ノ手ヲ与ヘテ  
之ヲ練習セシメ以テ筆力ヲ堅實ニシ漸次快活迅速ノ  
運筆ニ習熟セシム

算術 算術ハ一般ノ學術用ノ計算ニ缺ガ可カラザル  
モノナリ之ヲ授クハニハ術科ヲ解致シ算理ヲ推究シ  
法則ヲ發明シ然ル後之ヲ實際適切ノ問題ニ於テ用ヒ  
テ速美ノ通セシム

地理 地理ハ學藝及工業上須要ノ科ナリ乃チ地理總論

ニ於テハ数理上地理上印刷上ノ地理ノ要領ヲ授ケ用  
テ地理ニ於テハ全國ノ位置廣袤地勢氣候人民印刷上  
ノ區劃等ノ總論及各州ノ疆域地勢物産人口郡邑都邑  
等ノ誌ヲ授ケ萬國地理ニ於テハ各州ノ位置廣袤地勢  
氣候及各國ノ疆域地勢氣候物産人民都邑等ノ誌ヲ授  
ケ地理ニ於テハ地球ノ全体及地上諸現象ノ理生物分  
賦ノ事等ヲ授ケ凡ソ地理ヲ授クルニハ各邦ノ詳ニシ  
テ外國ニ畧シ專ラ人住實用上ノ事項ヲ知得セシム又  
務テ其物更況ラズシ地球儀地圖等ヲ用テ  
時ニ地圖ヲ描カシメテ思想ヲ精確ニス

歴史 歴史ハ先ヅ其本流ヲ授ク凡ソ臣民タルモノ勿論  
ノ沿革ヲ知ラサルハカクイザレハナリ之ヲ授クルニハ  
建國ノ條例制度ノ沿革風俗ノ變遷學術ノ隆替武備ノ

張弛教法ノ興衰等ヲ明ニシ明主賢相ノ傳行志臣義士  
ノ節操等ヲ講ニ尊主愛國ノ志氣ヲ振起セシムルニ  
要ス次ニ支那史ヲ授ク支那ハ古ヨリ本邦ト最メ親密  
ノ關係アレバナリ次ニ他ノ萬國ノ史ニ及ホシテ以テ  
年内五令ノ形勢ヲ通觀セシム又歴史ノ地理ノ科ノ関  
係ノ如キハ照忘解明シテ初想ヲセシメ以テ記憶ヲ鞏  
固ニセシムルヲ務ム

図画 図画ハ純ノ言語文字ノ及ハサハ所ヲ表出シ人ヲ  
ヒテ一見宛然トシム故ニ百般ノ學術圖画ニ依リガ  
ルモノ少シコトヲ授ルルニ資自在画ハ初メニ于本  
學ニテ臨畫セシム後真物ヲ示シテ寫生セシム用器画  
ハ初メニ諸法ノ理ヲ講ビ次ニ向題ヲ與ヘテ之ヲ画シ  
シム次ニ之ヲ活用シテ实地ニ真像ヲ画カシム而シテ

教授ノ際教師巡視ニテ諸ノ画法ヲ口授ニ發シ清潔ト  
綿密トニ注意セシム

生理 生理ハ身体ヲ保全スルニ後用ノ學科ナリ殊ニ兒  
童ノ教育ヲ掌ルモノノ深ク意ヲ留ムルニキ所トス之ヲ  
授ルルニ人人体ノ構造組織ヨリ各器官ノ作用ヲ統キ  
兼テ養生法ニ及ボシ以テ身体ヲ發育スルノ理飲食運  
動等ノ節セシムルハアルカヲカルノ學ヲ知ラシム又  
之ヲ授ルルノ際人体解剖ノ因循路及模型等ヲ亦メ確  
實ノ知識ヲ與ヘシムトヲ務ム

博物 博物ニ於テ植物及動物ヲ授ルルノ要ハ生物委各  
大部ノ正種ヲ擇ビ其ノ構造性質及分類等ノ概要ヲ授  
ケ其ノ生理ノ理ト各自ノ前關係トヲ明ニシ且其ノ本邦  
所産ノ生物ノ種美各形及用途ヲ知ラシム

以テ農工商ノ業ニ資スルニアリ之ヲ授ケルノ際博ク  
 動物植物ノ標品ヲ蒐集シ專ラ実物ヲ觀察シテ正確ノ知  
 識ヲ得セシメントウ務ク金石ヲ授ケルノ要ハ其各  
 殊性質ヲ知り之ヲ実用ニ供スルノ道ヲ講スルニアリ  
 植物動物ノ二科ト並之ニテ實ニ缺クベカラサルモノ  
 トス唯金石ノ科ハ頗ル物理及化学ノ科ニ關スルヲ以  
 テ之ヲ授ケル特ニ兩科ノ後ニ於テス之ヲ授ケルハ法  
 ハ夫ツ金石ノ形象物理及化学上ノ性質等ニ關スル總  
 論ヲ解キテ略分科法ニ通ゼシメ然ル後合金石ノ性質  
 効用產地等ヲ講明シ成ルモノ實驗上ニ於テ之ヲ識別  
 セシム

物理 物理ヲ授ケルノ要ハ物ノ形態上ノ現象及法則ヲ  
 講明シ其ノ應用ノ道ヲ知ラセリルニアリ球ニ此ノ科

他ノ理學及工藝ト親密ノ關係ヲ有スルヲ以テ詳ニ之  
 ヲ修メザンバアルベカラズ之ヲ授ケルノ法ハ務メテ  
 物理器械又ハ日用ノ器具ヲ用テ教師自ラ實驗ヲ為シ或  
 ハ生徒ヲシテ之ヲ成カシメ以テ真理ヲ理解セシム  
 化学 化学ハ物質ノ成分變化ヲ講究スルモノニシテ他  
 ノ理學ノ奥旨ヲ明シシ農業工業等ノ基ヲ用イコトヲ  
 シハ其力ニ依ル故ニ詳ニ之ヲ修メザンバアルベカラ  
 ズ之ヲ授ケルハ主トシテ實驗ニ依リ夫ツ普通化學  
 屬及化合物ノ製法性質ヲ教ヘ次ニ化学ノ通法及理論  
 ノ大畧ヲ示シ次ニ普通金屬及工藝藥學等ニ緊要ナル  
 化合物ノ製法性質ヲ教ヘ然ル後化学上ノ及之ニ親炙  
 シ器械ノ裝置試薬ノ取扱ニ練習セシムンガ各々ニ成  
 ルベク生徒ヲシテ自ラ製法及鑑識ヲ實驗セシム

幾何 幾何ハ線角面積ノ性質及關係ヲ推定シ且長短大

小ヲ測定スルモノニシテ又思考判決等ノ力ヲ啓發養  
成スルノ具トナルモノトシテハ之ヲ授クルニハ詳ニ幾  
何ノ原理ヲ論証シ諸種ノ適切ノ問題ヲ與メテ之ヲ  
用セシメ爰テ思惟ヲ緻密トラシム

代数 代数ハ字母表ヲ用テ施算ノ繁冗ヲ省キ一術  
ヲ以テ許多ノ問題ニ活用スルノ便アリ又委理ヲ詳明  
ニスルノ關鍵トシテ之ヲ授クルニハ秩序ヲ正シ  
クシテ原理ヲ推定セシメ以テ数字ノ智識ヲ精密ニシ  
他ノ兒童ニ算術ノ明晰ノ教授ヲ施シ得ヤンメンコト  
ヲ務ム

經濟 經濟ハ利用厚生ヲ道ニ講ズル必要ノ科トシドモ  
其理深ク其用廣ク以テ要領ヲ摘ミ之ヲ授クルハコト

ヲ授クルハモハ務メテ实例ニ基キ高尚ノ理論ニ馳マズ  
且リ一家ノ説ク所ノミニ偏倚マケラシムラ要ス

算術 算術ハ財産ノ出納ヲ明瞭ニ記載シ且ノ成績ヲ示  
スノ法ニシテ日常須用ノモノトス之ヲ授クルニハ先  
單式或ハ法則及清帳簿ノ記入式或ハ表正表ヲ製  
スルノ式等ヲ示シテ記簿ノ簡法ヲ知マシメ更進シ  
テ複式或ハ入り複記ノ算理ヨリ諸勘定ヲ設クルニ要

術及帳簿ノ編製或用法等ヲ教ヘ且其ノ記入式ヲ示シ  
計表利益身代等ノ諸表ヲ作りテ記入ノ正確ナルト結  
果ノ有様トヲ示スノ法及諸帳簿次第ノ順序等ヲ授ク  
農工商學 農工商學ヲ授クルハ要ハ其業上ニ要  
用ノ智識ヲ與ヘテ以テ人々營生ノ道ヲ概知マシメ更ニ  
將來職

業ヲ改良スルノ端ヲ開クニアリ之ヲ授クルハ

長若しノハ工若シハ高ニ異通ノ事改定也作是ノ便

概ニ通ゼシムルヲ旨トシ且其ノ理ヲ釐シニ審リテモ

務メテ高尚ニ修ルコトナク使用ニ適切ノモノヲ擇ビ

本邦法令 本邦現行ノ法令ヲ知りテ之ヲ遵奉スルコトハ

臣民タルモノノ第一ノ務メトス故現行諸法令中日常

知ラザル可アラザルモノニ就キ其ノ概ヲ授ク之ヲ

授クハ法ハ成文ノ意義ヲ解セシムルヲ旨トシ其理ヲ

講ズルヲ要ヤス

象  
心理 心理ハ心意ノ現状ヲ講究シ其ノ通法ヲ探定スル

モノニシテ心カヲ強勢ニスルハ勇ラ之ニ依ルナリ殊

教育ニ從事スルモノハ心意力ノ作用及心発達順序

之ヲ衝動ス可キ方法等ヲ熟知セムルハアルベカラズ

之ヲ授クルノ法ハ務メラバ徒ラシテ自家心意ノ作用

ヲ考察セシメ以テ適實ノ知識ヲ得ヤシム

教育學、學校管理法 教育學、學校管理法ハ兒童教育ノ道

ヲ講ズルノ科ニシテ師範學科中最重用ノモノナリ故

ニ人ノ師表ヲラント欲スルモノハ其ニ詳ニ之ヲ修メ

マンハアルベカラズ之ヲ授クルハ先ヅ教育ノ理教

育ノ沿革等ニ通ゼシメ次ニ之ヲ實施スルノ方途ヲ研

究セシム

實地授業 教育學、學校管理法ヲ講ズルモノ之ヲ實驗セザ

ル時ハ其ノ用ヲ為サズ故ニ實地授業ヲ練習セシム之

ヲ練習セシムルハ法ハ生徒ヲシテ附屬ノ學校ニ就キ

一級又ハ合級ノ授業ヲ擔當セシム或ハ他ノ生徒ノ授

業ヲ目撃セシム順次交代シテ諸級ノ授業ヲ實驗セシ

ム又其授業ヲ批評シテ之ヲ改良セシムンガ為ニ別ニ

訓導ヲ置キテ監督セシム此訓導及教育學學政管理法

等ノ教師ハ時ニ自ラ兒童ヲ教授シテ授業ノ模範ヲ示

スルリ實地授業ヲナスニハ時ニ德育ノ事ニ注意シ唯

ニ授業ノ際ニ於ラズルノミナラズ出入遊戯等ノ間モ

常ニ懲罰ニ教導ヲ施シ加親愛スルノ情ヲシテ益厚カ

ラシメンコトヲ要ス

唱歌 唱歌ハ音律ヲ正シシ聲調ヲ和シ專ラ心性ヲ感發

シテ修身ニ資スルヲ旨トス乃樂器ハ琴箏鼓ヲ等ノ如

キ音調純正ノモノヲ用テ歌詞ハ趣味正雅優美ニシテ

透徳上裨益アルモノヲ撰ブ

体操 体操ヲ授クルノ要ハ身体ノ諸部ヲ運用シ以テ健

康ヲ保テ発達ヲ完全ナラシムルニアリ乃チ毎朝之ヲ

演習セシム其法先ヅ体格ヲ端正ニシ十分ニ筋力ヲ用

ヒテ諸種ノ運動ヲサシメ兼テ体操ノ本旨準備等ノ

大意ヲ授ケ他ノ兒童ニ良母ノ体操ヲ施スコトヲ得ヤ

シム又步兵操練ヲ授ケ時ニ操櫛術ヲ演習マシム

此ノ他同校及中學校師範校入學手續及試業等種々アリ凡

殊ニ必要ナラカハ以テ畧ス

陸軍部為平定軍

之院軍

古海秀生

T/A  
1  
W17